

# 大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

\*特集

一冊入魂! —— 編集の愉楽

小柳 学 1

こんどはもっと遅かった『メ切本2』の編集

内藤 寛 6

いま、小説を作るということ

下平尾直 12

ページの奴隷、編集者!

小林えみ 18

『nyx』は百年後の光となるか

大学出版部ニュース 25

Japa  
Univ  
Pre  
No.  
2017  
Aut

No.112  
2017.10  
秋



一般社団法人  
大学出版部協会

大学出版部協会 新刊ご案内

ブックレット第4弾

# 対立を乗り越える 心の実践

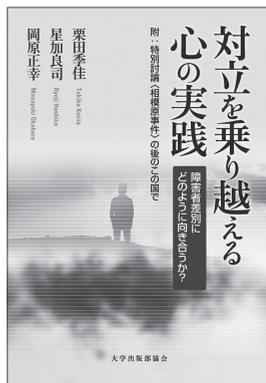
## 障害者差別にどのように向き合うか？

栗田季佳・星加良司・岡原正幸

大勢の障害者の命が奪われた〈相模原事件〉を起す影は、私たちの内にある。制度や「ねばならない」的教導では、差別はなくならない。「潜在化する偏見」を炙りだし、その原因となる心のメカニズムと社会的背景にまで遡って考察することで、差別解消への糸口を考える。

[発行：大学出版部協会／発売：東京大学出版会]

ISBN978-4-13-003153-0 2017年2月刊行  
A5判／88頁／本体1,000円＋税



### 主要 目次

- 第1章 見えない偏見  
障害者を取り巻く問題に現れる心の動き (栗田季佳)
- 第2章 バリアフリーという挑戦  
「社会を変える」ことは可能か (星加良司)
- 第3章 生の問題として〈対立を乗り越える〉を考える (岡原正幸)
- 第4章 討論  
対立を乗り越える学問の挑戦 (栗田季佳・星加良司・岡原正幸)
- 第5章 特別討論〈相模原事件〉の後のこの国で  
有事モード下の差別と偏見

## こんどはもつと遅かった『メ切本2』の編集

小柳学 (左右社)

昨日夜に「ほかの皆さんは責了となっていています」というメールが、この原稿の編集者である上村さんから届いた。

無名の私が迷惑をかけてどうする？ 早く書かないとと思いつつ、いまは、こんな状況になっている。

「むろん断るべきであった」

「忙しい時には、ねむい」

「才能がないのではないか」

忸怩たる思いとともに、『メ切本』のなかの文士の言い訳が、いままさに自分の気持ちそのものだ。

個人的な経験だが、著者の「金曜日には原稿を送るから」は、九〇%以上の確率で月曜日に原稿が来る。「金曜日には送るから」といわれて安心はしない。ましてや「いや、土日があるので、月曜日でも同じです」とはいわない。「月曜日でいいです」と答えれば、著者は「なんだ、じゃあ、水曜日でもいいんだ」と思うからだ。

金曜日に来るはずだった原稿が到着せず、日曜日に「明日、よろしくお願いします」というメールをして「明日朝イチでつくようにはしておきます」という返事が来るとする。ここでも、安心しない。原稿をいただけるのは、「明日の午後イチだろう」と推定するのである。

著者がいう「」のなかのことは、編集者は（）に翻訳して受け取っているはずだ。

「まさにいま書いているところです」↓（これから書くつもりです）

「明日からとりかかるから」↓（来月からとりかかるつもりだ）

ことを商売にしている者が、著者のことばだけは信じてはいけないと、自分に言い聞かせている。ああ、人間不信！ところが、なかなか原稿をもらえないことが、なぜかうれしい。というか、気分が高まるのである。編集者魂

に火がつくのである。そのあいだ、著者のことを考えつづけられるからか。編集者の多くは、執拗に原稿のことを考えている変な人、つまり変執者が多い気がする。だれか精神分析してほしい。

ところで、そんな心にもないことばのやりとりをしている著者と編集者は、「メ切」という一点で、ちぎれるほどきつく結ばれているのである。

そんなわけで長いあいだ、メ切についての本を出したいと思っていた。文豪はどうだったか？ ためしに図書館で夏目漱石全集と谷崎潤一郎全集を、一冊一冊、順に見ていたら、「メ切に間に合わなくて困っている」ことのエッセイが載っているではないか。

漱石はこんなことをいっている。

〈執筆は〉時間が十分あると思うと、やはり長時間かかる。午前中きり時間が無いと思っただけかかるとは、またその切り詰めた時間で出来る〉

その通り！

谷崎はこういつている。

〈私が貧乏している重大な原因は、遅筆ということに存するのである。これは原稿の催促に來る記者諸君にはいつも訴えているのだけれども、その程度が如何に甚しいかということを本当に諒解してくれているのは、私と起居を共にする家族の人達だけであって、記者諸君などは好い加減に聞いているらしいのが残念でならない〉

そうだったのか！

さらに全集を探す。編集者とのやりとりをそのままエッセイの題材にしている作家がいた。田山花袋には、こんな場面があった。

〈T君がやって来る。

「どうも出来ない。今度は出来そうもないよ。」

「それじゃ困りますよ。当てにしているんですから。出来ないと、そこが空いてしまうんだから……」

「だって、出来ないんだから。」

「じゃ、もう一日待つから。」

こう言つてT君は帰つて行く。〉

原稿をもらうまでは、編集者のほうが立場が上なのだ。ただし、もらった瞬間、立場は逆転して、作家のほうが断然エラクなる。

内田百閒先生だつてあつた。

〈到頭二十八日の朝になつて、稿未だ半ばならず、急にあわて出して、先ず第一に、雑誌社にことわりに行った。

「どうも申しわけありませんが、駄目です」

「お出来になりませんか」

「まだ半分には達しない始末ですから、諦めます」

「一月は六日から出ますから、それまでにお出来になったら、拝見しましょう」

「左様なら」

帰り途に、落ちついて考えて見たら、二十八日までとい

う期日は、小生がお金がほしくてきめて貰った日限であつて、雑誌の編集の都合からいえば、何も二十八日に原稿を受取らなくてもよかつたのである。小生は自分の困惑について、他人におわびしに来たようなものである。〕

百閒先生は、原稿料を、年を越すためのお金にしようとしていたのである。

梅崎春生にいたつては、仮病をつかつて、編集者の催促から逃れようとする。

〔枕もとには薬袋や薬瓶、体温計、水差しにコップ、うがい薬など、七つ道具が置いてある。一目見れば、これは単なるふて寝でなく、病臥であることが判るようになるから、田辺君はがっかりしたような声を出した。〕

「ほんとに風邪ひいたんですか」

「ほんとだよ」

私は努めて弱々しい、かすれ声を出した。

「見れば判るだろ」

「熱は？」

「うん。熱は八度七分ぐらいある」

七度五分などと本当のことを言えば、たちまち起きて書くことを強要されるにきまつているから、とつさの機転で一度二分ばかりさばを読んだ。〕

ここまで準備する時間があるのなら、その時間で原稿を数枚書けるのではと思ってしまう。

長い紹介（宣伝）になつてしまつたが、まこと、メ切エ

ッセイは、YouTubeのように、執筆現場の様子を目の前に再現してくれる「執筆現場再生装置」であることをいいのだ。作品の生成過程を研究する分野においては、これからメ切エッセイ研究は、さけて通れない一分野になることを確信している次第である。

これはアンソロジーでいける……と、エッセイや日記、書簡を集めたのが、昨年八月に刊行した『メ切本』である。全集という全集を見まくつた。国会図書館、都立図書館、複数の区立の中央図書館に通つた。遅筆で知られる作家は、文庫本のあとがきも調べた。時間ももつたないので、立ちながらめくっていくこともあつた。会社の数人が一年間、図書館通いをした。



そしてあれから一年後……。じつは、この原稿が遅れたのは（もしかしてボツになつている可能性あり）、なにあろう、『メ切本2』のまさに入稿直前の時期と重なつているからだ。チームの合い言葉は「打倒『メ切本』」である。映画なら「12」と名のつくものは、「1」のおもしろさに及ばないものが多い。でも、『エイリアン2』のような例外もあるではないか。『エイリアン2』を目標そうとなつて、上記の合い言葉となつた。

今回も集めに集めた。いや、徹底して集めた。同じ作家

の全集でも、違う版があれば、もう一度チェックした。すでに刊行スケジュールのメ切は三度、過ぎている。当初は春に刊行するはずだった。それは漠然とした目標だったから延びてもしょうがない。でも、五月には絶対だそうと気合を入れたが、「まだ「1」(『メ切本』のこと)」に負けています」と担当編集者がきっぱりゆずらない。七月になって「ちよつと肩を並べたかも」となった。私もそう感じた。もしかしたら、いけるかも。

八月に、全員で、これ、おもしろいよ、となった。「1」では、実際に掲載したエッセイと同じ分量のボツにしたエッセイや日記があったが、それらを「2」で使うことは、読者に申し訳ないという思いで、一切使わなかった。

果たして、「2」が受け入れられるのか。あーあ、やっぱり「1」のほうがよかったな、といわれてしまうのか。そんなことを考えると、この原稿に手がつけられなかったのである。パソコンに向かって二十分と根気がつづかなかったのである。

中井久夫さんは、書くことは「躁」と「鬱」を繰り返す作業だといっていたように思う。できる、ダメかも、できるはず、やっぱりダメかも。これを繰り返して原稿が完成するのだから、いつできるかは自分にも読めない。ほかの業界の人に、メ切について聞いたことがあるが、極端な話、メ切に遅れるはありえない、と聞かされた。たとえば、テレビだと映像がメ切に届かなければ場合によっては放送事

故につながる。新しいiPhoneの発売が予定より遅れてしまったら、それ自体がニュースになる。

ところが、この業界ではメ切を「守る人」はわずかだ。砂金のような存在だ。ほとんどが「守ろうとして守れない人」か「守る気のない人」だ。これは出版業界のほかの業界にない特殊な事情であるというほかない。

メ切を守る人、メ切を守ろうとして守れない人、メ切を守らない人。その三つの類型に、もうひとつ付け加えることができる。「メ切がなくても書ける人」だ。この人たちは天才だ。たとえば、宮沢賢治や南方熊楠。日本の文化は、メ切と無縁で執筆をした在野の人たちがつくってきたのだ。でも、メ切があつて天才になった人もいる。「2」に収めたドストエフスキーはその一人だろう。

翌年までに長編を書かないと向こう九年の全著作権を無償で提供する、という契約を四十四歳のときに悪徳出版者と結んだ。てんかんと痔に苦しめられながらも、ほぼ無一文ながらも、新しい恋人に求婚しながら、さらに『罪と罰』を書きながら、長編『賭博者』をメ切ぎりぎりに渡したドストエフスキーは超人だ。

編集も執筆と似ている。できる、ダメかも、できるはず、やっぱりダメかも。『メ切本2』も、またチームで同じことを繰り返している。なんども繰り返かえしていくうち、いったいどちらなのか、わからなくなってくる。わからないけど、できている、と信じて読者に手渡す。メ切があるか

からだ。最終的な判断は、結局、読者にしてもらうしかない  
(ここで宣伝させてもらえば、今回は「言い訳」も楽しいですが、  
「泣ける」×切話もあります)。

『×切本』と『×切本2』(まだ印刷所に入稿していません)  
を編集してきて、とりあえず、×切番付を考えた。東の横  
綱は五味康祐。西の横綱は野坂昭如。東の大関は井上ひさ  
し。西の大関は谷崎潤一郎。といったところだろうか。ご  
意見があれば伺いたい。

『×切本2』のサブタイトル候補に、「振り向けば奴がい  
る」という案がスタッフから出た(結局、採用にならな  
かったけど)。これは実感する。「奴」とは、×切のことだ。  
ふだんは、見えないのだが、後ろからじっと見守っている  
神のような存在。奴はともキビシイ。著者が「書けなく  
て、死にそうだ」といえば、「書いてから、死んでください」  
と突き放すだろう。本の作り手にも同じ態度だ。「命を削  
つても、本を出せ」と。キビシイが、見放すことはない。  
背中をこいういながら押ししてくれる。ここまで来たら、や

るしかないだろう。やってみれば!

『日本書記』や『古事記』にも×切はあっただろう。人  
生にはかならず死という×切があるのだから、いつまでも  
時間がゆるすわけではない。近代に入ってものごとく時間  
単位で進むようになってからはとくにそうだ。編集者が設  
定した×切なくして、名作は誕生しなかった。『罪と罰』  
も『吾が輩は猫である』も。

いや、古典だけでない。すべての本には×切がある。す  
べての本は、×切という高く厚い壁を乗り越えたヒーロー  
だ。これまでも、これからも。だから本棚に並ぶ本の背を  
眺めながら、ぼくたちは勇気をもらおう。×切よ、今夜もあ  
りがとう(「夜霧よ、今夜もありがとう」のパロディです)。

#### 付記

本稿を提出しグラが出るあいだに、『×切本2』の  
×切が一週間延びた。×切を破るのは作家だけでな  
いことを報告しておく。

# これがすべてを 変える

上  
下

資本主義 vs. 気候変動

ナオミ・クライン / 鷗島幸子、荒井雅子訳

#### 闘う相手は資本主義だ!

人類最大の危機は、大きな  
歴史的チャンスでもある。  
「ショック・ドクトリン」の著  
者による、地球と私たちの  
未来を考える上で必読の書。

四六判・本体各2700円

## ●われわれは、何を、どう見ているのか 視覚の生命力

柏木博

「イメーシ」の復権

四六判・本体2800円

デジタル・メディアの発達と並行して、視  
覚一般への関心も高まっている。見る欲び、  
見えない世界まで視野に取めた評論集。



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋  
(定価は表示価格+税)

<http://www.iwanami.co.jp/>

## いま、小説を作るということ

内藤寛 (重紀書房)

以前勤めていた会社で一度仕事をさせていただいた大竹昭子さんに「また何かやりませんか」とお声がけしたのは、わたしが重紀書房に入って間もない頃のことだから、もう三年も経つことになる。

わたしは、大竹さんに建築についてのエッセイを書いていただくというアイデアを描いていた。大竹さんが、建物、とくに間取りに興味を持っていることはよく知っていた。散歩好きでもある彼女のこと、建築と散歩のテーマを組み合わせたエッセイなら、面白いものになりそうだ。

「すこし考えてみます」

数日後、送られてきたメールにはこうあった。

「間取りをテーマにした小説なら書けそうです。間取り図を入れて、そこを舞台に物語が動くようなもの。それならぜひやってみてください」

小説……やりたいとおっしゃってくださいるのはまことに

嬉しいが、小説とは。これは苦戦が予想される。

小説業界は明らかかな苦境にあった。別に面白くて売れる作品がないというわけではない。大ヒット作も定期的に出るし(その頃は、『村上海賊の娘』が大きな話題を呼んでいた)、人気作家の作品が発売されれば、書店のいい場所に必ず小山が出現する。

だが、大きく展開されて広く読まれる作品はごく一部で、いわゆる文芸、純文学に限ってみると、受賞歴のある作家や人気作家たちも、初版部数下がっているとも聞く。翻訳小説は(調べたわけではないけれど、体感上)、刊行される点数そのものが減ってきているようだし、定価もじりじりと高くなってきている。

小説売り場に足を運んでみれば歴然としている。まず、かつては書店の一等地に鎮座していた小説だが、いまやその場所は健康本や生き方論や自己啓発やビジネス書に譲り、

奥まった場所にお引越し。その奥の院は、いつ行っても人が少ない。というか、人がいない。コーナーの規模そのものも小さくなっている。

これは、二〇一四年の時点から（いやもっと前から）いまに至るまでまったく変わらない傾向だと思う。むしろ、それは進んでいると考えていいだろう。人は、一部の話題書以外、小説を読まなくなっているのだ。

そこへもってきて、わたしの勤める亜紀書房は小説の版元ではない。五十年の歴史のなかで、翻訳の古典小説を除けば、これまでほぼ小説を出版していない。多くの読者はレーベル（版元）の名前を必ずしも気にして本を買うわけではないようだから、「亜紀書房発行」は読者からすればマイナス材料とはならないかもしれない。そうは思うものの、書店さんは違う。営業部に、書店の小説担当の人とのつながりがないのだ。商材がない以上、そもそもその棚の担当者と会っていないのは当然である。だから、小説の企画を通せば、営業部は多くの書店で一から営業を開拓していく必要が生じるかもしれない。これは、決して低くはない壁である。

さらに、企画を立てる上で不利な条件は続く。

ジャンルを越境するような執筆を展開している大竹さんは、必ずしも「小説家」として認知はされていないだろう。新しい小説が出れば日常的にチェックし、面白そうなものなら何でも手を伸ばす小説中毒者は手にとってくれるかも

しれない。だが、それ以外の読者には、「知らない作家」である。新人作家を売り込むのに近い。小説の読者が少なくなっている現状では、浮動票を集められなければ、ヒットはなかなか見込めないだろう。

ふつうならまず、「止めとこ」となる条件満載である。

\*

だが、わたしは大竹昭子が超一級の小説家であることを知っていた。以前読んだ短編集『図鑑少年』には衝撃を受けていた。独特の、温度感の低い文体で書かれたそれは、内面とか感情よりも身体の動きとか運動に重きを置いた小説だった。

たとえば上下の移動を描かせたら、大竹昭子の筆は絶品である。階段を昇って風景が開けたというシーンでは、頬を撫でるさわやかな風を、飛行機の離陸を描写すれば、体にふわつとかかる重力を、読者はありありと感ずることができる。著者の言葉が、己の肉体を通して受肉したものであるからにちがいない（これは、小説に限らずこの著者の書くものすべてに共通して言えることである）。

どの物語も、突然ぼんと投げ出されるようにして終わり、不思議な後味が余韻となっていくまでも残る。ニューヨークの作家だといわれたら信じてしまうような、日本の小説ではあまり味わうことのできない、涼やかな心地よさに満ちた物語集だった。

鈴木成一によるデザインも見事だった。本文の内容と付

かず離れずのモノクロ写真が、随所に挟まれている。これがじつにかっこいい。文芸誌では小説にイラストが添えられたり、なかには写真が入ったりするものも見られる。だが単行本となると、まず見かけない。ビジュアルの要素が入ると想像力が制約されてしまつて、楽しめなくなる恐れがあるからだ。

映画の日本語吹き替え版を見て「こんな声じゃないはずなんだけどなあ」という、あの違和感（わたしにとってシルベスタ・スタローンの声がそれである）。下手に小説にビジュアル要素を入れるとあれの二の舞になりかねない。

それに、「活字の世界に浸りたい」という読者のモードに水をさすことにならざるを得ない。あまりごちゃごちゃといろんな要素が入ってくる本は、読んでいてうるさいものである。そっちの要素が気になつてしまつて、肝心の内容が頭に入つてこなくなる。

ところが『凶鑑少年』は違つた。写真が物語を刺激する。写真があるおかげで、細部に活字だけでは出なかつたリアリティが付与されている。小説のはずだけれど、これは現実のあの場所だろうか、といった具合に想像力が動く。

これは面白い体験である。もちろん、小説は現実の場所や人や体験に基づいて書かれるものかもしれない。しかし、読者は、「お話」として現実から切り離して読んでいることが多いのではないだろうか。だからこそ、物語は現実逃避や息抜きになる、そう思っていたのだけれど、この本で

は、現実がフィクションのなかに貫入してきて、フィクションと現実が絶妙に混じり合う。読み終わると、現実の風景の見え方が、少し歪むような感じまで与えてくれる。

本は、人の生き方を大きく変えることはできないかもしれない、いつも本づくりをしながら自戒している。「この一冊が世界を変える」なんて思つてつくつてみると、どこか思ひ上がった作品ができあがるものである。どことなく醸し出されるそうした雰囲気は読者に鈍感に察知され、その本は敬遠され、読まれなくなる。昔は知らず、いまは一冊の本が世界を変える時代ではないのかもしれない。

ただ一方で、良い作品は、もの見え方をずらすくらいのことでは済むのも確かである。揺るぎないかに見える日常に、くさびを打ち、さざなみくらいは起こせる。というより、読む者のうちに否応なしにそうした化学変化を起こしてしまうのが、力のある本というものだ。

そしてそんな力を、大竹昭子の小説作品は持っていた。売れるのかと問われれば心もとない。しかし、とびきり面白い作品ができるにちがいない。わたしは腹をくくつた。「大竹さん、『凶鑑少年』を超えるような作品をつくりましょう」

\*

大竹昭子「間取りと妄想」は、二〇一五年八月から亜紀書房ウェブマガジン「あき地」で連載を開始した。原稿はテキストと間取り図の原案が同時に送られてくる。この図

## 日本の長い戦後

敗戦の記憶・トラウマは  
どう語り継がれているか

橋本明子 記憶は主観的に選び  
とられる。東アジアの亀裂を招く  
敗戦の文化とは。気鋭の社会  
学者が分析。山岡由美訳 ¥3600

## トラウマの過去

産業革命から第一次世界大戦まで  
ミカリー／レルナー編 外傷的  
出来事に襲われた後、何を作り  
直し、語り継ぐべきか。分野を  
超えた重要書。金吉晴訳 ¥6800

## 精神の革命

急進的啓蒙と近代民主主義の知的起源  
イスラエル 急進的啓蒙とは何  
か。スピノザ以後に生れた自由・  
平等・理性・人権概念などの生  
成過程を検証。森村敏己訳 ¥5000

## 人はなぜ太りやすいのか

肥満の進化生物学

パワー／シュルキン 肥満増加  
の背景に進化的適応と脳の大型  
化が。太る仕組みを知ることわか  
る真の健康。山本太郎訳 ¥4200

## 映画とキリスト

岡田温司 物語、キャラクター、  
テーマ、表現手法などに息づく  
キリスト教を西洋美術史家が分  
析。映画論の盲点を衝く。¥4000

## 交換・権力・文化

ひとつの日本中世社会論

桜井英治 贈与経済の極限は市  
場経済に近い。非ポトラッチ型  
の〈成熟した儀礼社会〉とは。  
中世人の精神にまで迫る。¥5200

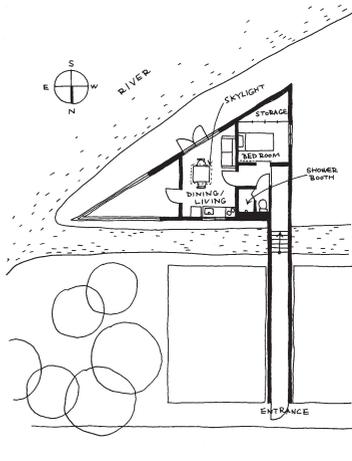
## 天才作曲家 大澤壽人

駆けめぐるポストン・バリ・日本  
生島美紀子 交響曲はじめ千に  
及ぶ曲を世に送った稀有の音楽  
家が半世紀余の沈黙をへて蘇る。  
その生涯と作品を再構成。¥5200

東京文京本郷  
5丁目32-21 **みすず書房**  
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)  
http://www.mszz.co.jp

を、作品を読みつつ、現実において得る縮尺や建築的に実現可能な設計に落とし込む。このやっかいな作業をイラストレーターというたけなみゆうこさんが担当してくれた。建築学科修了という変わり種の絵描きで、建築の素養の必要なこの仕事にうってつけの人材である。

上がった図に対し、さらに大竹さんからの要望やチェックが入る。そこまでこだわる必要がありますか、と言いたく



「舟の舳先にいるような」より

なるくらい、相当念入りに。物語に出てこない部分についても、デイスカッションが重ねられる。

だから、『間取りと妄想』に収められた十三の間取りは、最後の一つを除くと、ぜんぶ実際に建築可能である。いつかこの本の間取りを建てました、というマニアの方が現れたらぜひ連絡をいただきたい。取材に駆けつけます。

物語は、十三の間取りを舞台に、性別も年齢も様々な主人公が繰り広げる日常の一シーンである。しかし、連載の途中から、あるテーマを意識して原稿を読むようになった。間取りとは、身体の延長であり、メタファーである。入口と出口があって、外の世界の光を取り入れる窓。目がある。でも、わたしたちはえてして意識の檻に囚われ、うちにひきこもり、外への通路を見つけれなくなる。

連載中のある時、「そんな檻からどうやって出口を見つけるか、それが、この本で書きたい隠れたテーマです。だから読み終わって、外への通路があると感じられたらその話は成功。感じられなかったら、うまく書けてないってこ

とだから、指摘してください」と著者に言われたのだった。面白いことに、本が出たあとでそのことを言うと、本人はまったく覚えていなかった。そのテーマを意識したつもりはなかったともいう。ほとんど無意識の思いだったのだろう。創作に入って妄想が活性化した作家の頭脳がどう働いたのか、その一端に触れたようで、興味深かった。

順調に進行した連載は二〇一六年十二月に終わり、単行本は二〇一七年の五月刊行と決まった。

ここからがもう一つ編集者として踏み張りどころである。今回取った大きな戦略上の選択が、造本をソフトカバー（並製）にすることだ。現在、文芸の単行本のほとんどは上製（ハードカバー）である。わたしも著者も、当初は当たり前のようにハードカバーを考えていた。デザイナーの名久井直子さんにも、上製で発注していた。しかし、それで本当に正しいのだろうか。土壇場で踏みとどまって考えた。

予想される客層は、女性が中心である（事実、発売後に各種売上データを見ると、購読者の七割近くは女性だ）。日頃あまり本を読まない女性たちになぜと訊いてみると「読みたいけど、本は硬くてカバンに入れてにくいし重いから」という答えがじつに多い。一方で文庫は文字が小さいから辛いともいう。ならば、四六判というサイズは維持しつつソフトカバーにして軽く柔らかくすれば、気軽にバッグに入れて持ち歩いてくれるのではないか。

それだけではない。ハードカバーは、「しつかり読めよ」

という暗黙のメッセージを発しているのではないか。文芸好きの読者にはそれでいい。わたしもタイトルが品良く箔押しされたポール・オースターのハードカバーの新作にぐっとくるタチだ。しかし、本を読みつけない人には、「なんだかちよつと難しそうで面倒くさそう」と敷居の高さを感じさせる要因になってはいないだろうか。

さらに、ソフトカバーなら製造原価も安く抑えられる。名前に馴染みのない著者の作品に、女性はいくらまでなら財布のひもをゆるめてくれるのか。定価を安く抑える自由度を得る上でも、ソフトカバーは有利だった。

また今回の企画は、小説読みだけがターゲットではない。世には間取りに関する本が多く出版されている。いわゆる「間取り好き」も当然、読者対象にしたい。小説は読まなければ、興味があるという読者を取り込むことができれば、販売面でもチャンスが広がるのではないかと。そこで、営業部には、文芸と同時に、家づくりや間取りに関連する棚にもアプローチしてもらった。普段、小説が置かれることは少ない場所である。そうした読者へ広げるところを狙って、企画当初一六〇〇円を予定していた定価は一四〇〇円に下げた。

敷居を低くする仕掛けは他にも試みた。別刷の付録として、間取りだけを集めた冊子を用意した。間取り図を横に見ながら小説を読んでもらえるようにという工夫でもあるが、店頭で手にした読者が、「間取り推しの本なのね」「図

がいっぱいで気軽に読めそう」という印象を持ってくれたら、という思いもあった。図だけを見て、自分なりの妄想に浸ってくださいる方もいるかもしれない。

推薦文も、小説家の堀江敏幸氏、翻訳家・エッセイストの岸本佐知子氏に加え、ユニークな建築作品で知られる建築史家の藤森照信氏にお願いしたのは、小説好きだけでなく、建築好きにも訴えることを狙ったものだ。

日々本をつくるなかで、必ずしも将棋の手を全て詰めたとは言えないままに発売日を迎えてしまうことも、ないわけではない。しかし今回は、自分なりに打てる手は打ったという充実感があった。これで売れなかつたら仕方ない。世の中が悪いんじゃない、と泣きながらひざを抱えて引きこもるしかない。

こうして店頭に並んだ『間取りと妄想』は、発売直後から大きな反響を得た。新聞や雑誌に続々と書評やインタビューが掲載され、テレビにも取り上げられ、めでたく重版



大竹昭子著『間取りと妄想』

出来となった。編集者としては、ほっと胸をなで下ろしている。

読者からの反応を見ると、著者のファンや小説好きだけでなく、「間取り好き」にもうまくリーチできたようだ。「この間取り、もしかしてあそこの家じゃないですか？」と訊いてくる読者もいて、現実と虚構の境界を壊してみせた『図鑑少年』の試みを、別の形で引き受けることができたんだな、と嬉しくなる。

小説を「小説らしく」作ることも、もちろん尊い仕事である。しかし、それだと届かない読者も、世の中には多くいる。そうした人たちに届ける本づくりというのは、まだ可能なのではないか。少しずらしたところから考えれば、いまなお小説は「お客さんと呼べる」コンテンツになりうるのではないか。良い小説を読んだときの充実感は格別なものだ。その喜び自体が失われたわけではない。きつとみんないろいろあって、忘れていただけなのだ。

ではどうやったら、その喜びを思い出してもらえるのか。どうやったら、コアなファン以外を集客できるのか。かつて比べて本を読まなくなり、本に割けるお金も時間も少なくなっている読者に、どうすれば「本は楽しい」と思ってもらえるのか。

もちろん、これは小説に限った話ではない。まだまだ、われわれの気づいていない「やれること」がきつとある。それを考えるのは、辛く、そして楽しい。

## ページの奴隷、編集者！

下平尾直 (共和国)

おれは遠い砂漠の国からやってきた。刺されたら半時間で絶命するというあのジヒギトリが棲息する、夢の国からやってきたのさ。ここにはきみたちの世界は存在しない。だから、きみたちももう「出版不況」だとか「本が売れない」だとか「本屋さんが危ない」について考えなくていいんだ。だって、そんなものはおれが生きているこの世界には必要ないんだから。そんなものに流し目を送らずにすむよう、おれはこの国をつくってみた。共和国さ。本でできた国、本、本、本、ブック、クニガ、リーブル。ここでは本という「もの」であることが肝要なんだ。コンテンツってのは本ではない。最初から順番にページを繰って、ページずつ論理的に物事を認識し考えるこの時間文化の原則を守っていなければ、本とは呼べないのさ。

とはいえこの本なるものは、十五世紀中葉に活版印刷術が発明されて以降まったく変化をもたない、カビの生えた

メディアでもある。それこそ旧態依然の象徴だ。いくら奇抜なブックデザインや贅を凝らした資材を用いたとしても、メディアとしての本の内実が大きく覆されることはない。にもかかわらず、ではなぜ本に惹かれるのか……。

\*

いまわたしの目の前に座っているシモヒロオ氏が、「共和国」とただ漢字三字をならべただけの出版社を樹立したのは、二〇一四年四月のことである。

法人化してあるので正しくは株式会社共和国であるその出版社は、といてとくにベストセラーを生み出したわけでもなく、知名度にいたっては業界でも弩がつくマイナークラスなので、お世辞にも成功しているとは言えないが、かれが代表取締役から奴隷役までをひとりで担っているせいか、かろうじて食いつなぐことができているという。そ

## 新 刊 案 内

のシモヒラオ氏が、そうでなくても浮かぬ顔をいつそう歪ませているのはなぜか? 「編集者志望」という若い読者から、なんとも答えにくい質問を浴びせられているからである。ここではその一部を抜粋して引用する。

——「……」そうですか、共和国という出版社についてはなんとなくわかりました。ところで、第一回河合隼雄学芸賞を受賞した藤原辰史さんの『ナチスのキッチン——「食べること」の環境史』ですが、この本の刊行までの経緯などを教えていただいてもよろしいでしょうか。

経緯もへったくれも、この本をつくったのは何年も前の話で、そもそも前職時代に出した本だからね。それに書いたのは藤原さんなんだから、聞きたいことがあれば藤原さんに聞いてよ。本は著者のものだから。感想を伝えたら藤原さんもきつと喜ぶと思うよ。

——そうでなくて、編集者という仕事に固有の愉しさや、こういう著者やテーマとめぐりあえたときのうれしさみた

◎「慰安婦写真展中止事件から五年 白爾社会を乗り越えるために」

安世鴻 李春熙・岡本有佳 編 A5判二九四頁 本体二四〇〇円

### 誰が〈表現の自由〉を殺すのか

——「コンサロン」慰安婦「写真展中止事件裁判の記録」

ニコが抗議を恐れて中止決定に至った経過やネット上の抗議行動が〈表現の自由〉に与えた影響など、日本社会が直面する課題に教訓を示す。板垣竜太、小倉利丸、金富子、李史織ほか執筆。詳細な裁判資料を付す。

いなものがありませんか。

すぐ編集者編集者っていうけど、きみたちはなぜ編集者になりたいのか。わたしなんて百万部のベストセラーを出したわけでもなく、まして村上春樹や芥川賞作家の担当者でもない。誰にも知られてないぼつと出のアングラ出版者ですよ。もっと有名な「敏腕編集者」から話を聞けばいいんじゃないかな。それにだいたい編集者と呼ばれる肩書きの人間がどれほど存在することか。書籍や雑誌、コミックだけでなく、カタログやパンフレットなんかのデザイン業界、音楽や映画、あるいは紙媒体に限らずウェブまで含めれば、編集者の名刺を持つてる人間なんて膨大な数ですよ。本を一冊も作ったことがなくても名刺だけは編集者なんて人間もたくさんいるだろうし。歯医者やコンビニほどじゃなくても石を投げれば編集者にあたるんだから、きみももっと有望な仕事をめざしたら? 公務員とかさ。

——自分だって編集者じゃないですか。わたしはいい齢になってほかに食べる手段がなかったか

◎「性」の尊厳を踏みにじる軍事化と排他的ナショナリズムに抗して

宮城晴美 高里鈴代・安次嶺美代子・山城紀子・川田文子・秋林一子・えぬみ 著  
鄭暎恵 大嶋果織 山下明子 著 A5判二二〇頁 本体三〇〇円

### 沖繩にみる

### 性暴力と軍事主義

戦争責任と戦後責任を問い直す趣旨で、近代日本から現代に続く性暴力の現実について、沖繩と軍事支配に焦点を当てて検証する。

### 御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20  
電話03-5684-0751  
<http://rr2ochanomizushobo.jp/>

ら、仕方なく勝手に自分で名乗ることにしたただけでね。きみたちはまだ若いんだから、ほかにいくらでも選択肢がありそうなものだけだ。

——そんな説教は紙数の無駄です。ほら、本誌の担当者の上村和馬さんも怒ってますよ。締切だって大幅に遅れるじゃないですか。雑談はいいので『ナチスのキッチン』について話してください。

この本は現在までのところ、質量ともに著者の藤原辰史さんの代表作だとおもっているし、思いがけず賞をいただいたりこうやって話す機会を与えられたりして、本当に光栄です。だからこそ、独立後もわざわざ版權を移して再発売しているわけです（『決定版』ナチスのキッチン——「食べること」の環境史、共和国二〇一六年。水声社版は絶版）。

とはいえ、何度もいうけど、本は著者のものだから、わたしから話せることなんて何もないんだよね。だいたい編集者として話すべき重要なことは、刊行にいたる経緯もふくめて、すべてこの本の「あとがきにかえて」、「新版のあとがきにかえて」に藤原さんが書いてくれているから、それを読んでくださればいい。編集者なり出版者なりとしては、藤原さんにはこの本を乗り越えるような、さらに充実した仕事を期待しているし、それに藤原さんがいま多方面で活躍しているように、どんどん新しい著者や訳者を世に出すのが編集者の仕事だから。過去の仕事について思い出話を語るほど齢をとったつもりもないしさ。

——そちらがどう思っているかはともかく、読者にとつては新しい本も古い本も同じ一冊の本なんです。読者は何も新刊だけを追いかけているわけではありません。編集者や出版者は、すぐに新刊とそれ以外を分けて考えますが、それが読者の感覚と乖離しているとはおもいませんか。

そう言われればそうかもね。

——じゃあ言い方を変えて、ダイレクトに聞かせてください。ある大手通販サイトでは、この本は「イデオロギー的な分析がゆがんでいる」と匿名の評者によって批判されていますね。ようするにあまりに一面的に、結論ありきでナチスを悪だと決め付けているのではないか、と。また、ネット上に掲載されている別の書評では、編集者——つまりわたしの目の前にいるあなた——がそのゆがんだイデオロギー的なバイアスをかけた張本人なのでは、と批判されていますか。この点についてはどう思います？

へー、そうですか。これまでウェブ上の匿名の批判に対して応えることはしたことがないんですが、ナチスに対してはイデオロギー闘争が必要だとおもってきたので、それはそれでまっとうなご意見ではないですか。イデオロギーがゆがんでいるのはナチスのほうですからね。それに対する批判抜きにナチスを「評価」することは、それこそ麻生太郎以下のような歴史修正主義への道を開き、かれらに利用されるだけではないでしょうか。それともうひとつの「編集者が」云々についてはですが、それが藤原さんの「あ

とがきかえて」のなかにある、わたしが「ナチスのキツチンの究極は絶滅収容所にあるのでは」と言った、というこの片言隻句をとらえてのことだとすれば、微笑をもって応じるしかありません（笑）。以上です。

——あれ、それだけです。ぜんぜんおもしろくないですね。これじゃあ議論になりませんよ。

批判も含めて自由に読んでくだされば、編集者なり出版者なりとしては本望です——だから編集者なんかに話を聞こうとするもんじゃないわけ。

——そういうもんなんですか。

ひとそれぞれだけどね。まあそれは別として話はちよつと変わりますが、せんだって（二〇一七年七月十八日）、民進党代表の蓮舫が自身の「二重国籍」に関する記者会見を開いたものまったくの徒労に終わって、結局その直後に民進党代表を降りる、ということがあったよね。

——ああ、蓮舫が「元代表」になったとたんすつかり忘れていましたが、そんなことがありましたね。

## 天皇の即位儀礼と神仏

松本郁代著 2800円  
皇位の正統性はいかにして創出されたのか。即位儀礼の本質に迫る。

## 古代豪族葛城氏と大古墳

小笠原好彦著 2200円  
大和の最有力豪族の実態を、政治力、経済力、軍事力から解き明かす。

## 源頼義

(人物叢書 289)  
元木泰雄著 義家・頼朝へと続く河内源氏二代目。前九年合戦で安倍氏を滅ぼした生涯。2100円

## 相模武士団

関 幸彦編 2500円  
三浦・大庭・海老名……。政治権力の磁場「相模」に生じた武士団！  
〈既刊〉武蔵武士団……2500円

## キリシタン信仰史の研究

五野井隆史著 9000円  
聖画像・ロザリオ・信心会・婚姻・葬儀……。信仰生活の実態に迫る！

## 荷車と立ちん坊

近代都市東京の物流と労働  
武田尚子著 知られざる明治社会の側面を探る！ 2400円

### 歴史文化ライブラリー

## 449 文明に抗した弥生の人びと

寺前直人著 1800円  
大陸の新文明は歓迎されなかった？

## 450 ふたつの憲法と日本人

戦前・戦後の憲法観  
川口暁弘著 2000円  
日本人にとっての「改憲」を問う！

## 451 出雲の中世

地域と国家のほざま  
佐伯徳哉著 2000円  
一地域から見てくる中世国家の姿。

## 452 帝都防衛

戦争・災害・テロ  
土田宏成著 1700円  
帝都防衛は社会情勢を映し出す鏡！

## 吉川弘文館

〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151 / 価格は税別

かの女はこのとき、「野党第一党の党首」として「戸籍の一部も含めた関連資料」を示したそうですね。「親や本人、子どもの国籍、髪や肌の色や、名前や、出自など、日本人と違うところを見つけ、『違わない』ということを戸籍で示せと強要されることのない社会をしつかりとつくっていきたい」ため、というのがその理由だと、民進党HPには書いてあった。で、わたしはこの報道を目にして、暗澹たる思いを禁じ得ませんでした。なぜかというところ、ひとつにはさきほど引用した発言、「日本人と違うところを見つけ、『違わない』ということを戸籍で示せと強要されることのない社会を」という言い方に、「都民ファースト」や「国民ファースト」を裏返しにしたのと同根の思想が潜んでいるように感じたからです。いうまでもなく、「都民／国民ファースト」であるためには「都民／国民以外」の人間の自由と権利を最大限に、むしろ都民／国民以上に尊重する必要がある。そのことは何度も強調されなければならぬ。だから逆に言えば、蓮舫自身をことさらに批判す

るつもりはなくて、むしろかの女をここまで追い詰めた者ども、それに類する者どもに対して、もつと持続的な、継続的な批判が必要ではないかと思うわけですよ。それが現在の東京都知事のようなイデオロギーを肯定することになつてしまふわけだからね。それともうひとつは……。

——もうひとつは？

一九三三年三月、いわゆる「全権委任法」を強行採決したナチスは、同じ年の九月に「帝国文化院法」を制定して文化統制を強固なものにします。そしてその翌月に制定されたのが、「編集者法」(Schulftüchtengesetz)です。ここでいう「編集者」とは、「文章、報道または画像により、ドイツ国内で編集せられる新聞および政治雑誌の精神的内容の形成に対して「……」完全な協力をなす者」で、この「編集者」としての資格が備わっていないければそれを自称することが許されませんでした。つまり、「ドイツ国籍を有すること」そして「アーリア人種の血統に属する者であつて、非アーリア人種の血統に属する者と結婚していないこと」という「資格」がなければ、「編集者」にはなれなかつた。ここでいう「編集者」はいわゆるジャーナリスト、「記者」のイメージですが、いくらでも拡大解釈可能な条文だと思えます。そしてそれだけではなくて、三五年四月には、「あらゆる出版社は、西暦一八〇〇年にさかのぼって自分の家系にユダヤ人の血が混入していないことを証明」することが必要になります。これでユダヤ系の出版社は一挙に海

外に亡命せざるを得なくなつた。さらにこのあと十一月には、ドイツ国民のすべてのユダヤ人が公務員職から追放されるわけですね。だからナチスはまず職業差別によつてユダヤ人を排斥するんですが、それも出版や編集者が踏み板になるわけですよ。このまえの蓮舫の一件が、今後の日本でその役目を果たすことにならなければ……という懸念を、わたしはいま現在の政治状況で払拭できません。そう考えると、編集者や出版者は、まさにナチス的なイデオロギー闘争の矢面に立たされようとしてるんじゃないか。すでに大手マスコミやメディアは政権に懐柔されて骨抜きになっているけど、出版や編集という仕事に従事することにもなつてしまつているんじゃないですか。「ナチスのキツチン」のような反ファシズム、反ナチズムの出版物を刊行する出版者は、やがて日本でも自分たちの血統を問われるようになるかも知れませんね。そのときに、わたし自身もふくめてどう抵抗すればいいんだろうか？ 共謀罪が成立してしまつたので、もう後戻りできませんよ。

——なるほど、じゃあ、そんな時代に一介の編集者に何ができると思いますか。

わたしは小説家でも研究者でもないから物語をつくることはできません。だけど編集者は「時間」を作ることができる。別の時間、別の価値観でもつてこの現実と対峙することはできるんじゃないかな。もちろん、時間を作る仕事

は他にもあって、文化総体がそれにあたるわけ。文学でも音楽でも映画でもいいんですが、小説だったらその小説に独自の世界と世界観があり、その世界だけの時間が流れています。たとえば太宰治の『人間失格』という二百ページの小説を実時間で百二十分で読んだとしても、その作品のなかでは三十年ほどの時間が経過するよね。編集者は、その三十年分が書かれた二百ページの本を作り、その本によって、いま現在流れている時間とは別の時間を作り出すことができる。そして本というのは、時間の文化でありまた論理的な文化でもある。前から一ページずつ順番に読んでいかないと、『人間失格』の意味がわからない。そこはコンテンツツじゃないんだよ。だからわれわれは、読者にストレスなく本の時間を生きてもらうために、ツカや無数のページをなんらかの法則に従って束ねる必要がある。そしてページに翻弄されたり、あるいはページに支配したり支配されたりする。言い換えれば、ページの奴隷なんだな。そしてこの奴隷業を愉しめないと、他人の論理に乗ったって、誰かの本を編んだりなんて、それこそ苦行以外の何物でもない(笑)。あるいは一読者としていえば、わたしはこんなクソみたいな現実にはあんまり関心がなくて、『悪霊』とか『影のない男』とか『大菩薩峠』とか『いやな感じ』とか、ああいったロマンの登場人物になって余生を過ごしたいんだよね(笑)。きみはこれから編集者なんて職業を選びたいんだから……奇特だよなあ。

にもかかわらず、なぜ本に惹かれるのか……。

\*

簡単なことだ。本には思想があるからさ。本にながしかの思想が書かれている、という意味じゃない。本というもののそのものが一個の思想なんだ。きみたちの好きなカネに思想があるように、本にも思想がある。どういう思想かって？ 本はひとを幸福にする。本は、執筆者や読者だけでなく、それをつくるひと売るひと流通させるひとなど、それに関わるひとすべてを幸福にするんだ。たとえばそれがエロやグロやゴミみたいな政治家や芸能人のゴシップであったとしても、本を媒介することによって、ひとは幸せになり、豊かになる。本さえあればカネなんかなくても生きていける。いや、そんなにカネがほしいなら、カネを生み出すことだってできるだろう。

だからおれの夢はこの国を、いや、国なんかいらなく、この世界を、花やカネやジギトリの代わりに本で埋め尽くすことなんだ。それが思想なのさ。あの棚やこの棚にあるすべての本を、ほら、きみの部屋の本棚へ！

\* 本稿はフィクションです。文中の一部に実在する人名や団体名が登場しますが、すべて執筆者の妄想の産物であり、歴史的事実とは関係がありませんのでご注意ください。

## 『nyx』は百年後の光となるか

小林えみ (堀之内出版)

日本国家公務員労働組合連合会(国公労連)の雑誌『KOKKO』の打ち合わせで青空爽やかな午前中に新橋へ。この町へ行くと、思い出すことがあります。二〇年前、アルバイト先の銀座からバイトの先輩に連れられた、古いテナントビル地下の小料理屋で「就職決まらないんです」という話をしていたら、自称そろそろ五〇歳のママに「えみちゃん、就職決まらなかったらこのお店あげちゃうから継ぎなさい！」と酒枯れた声で宣言され、ほっぺにチュウしてもらったことです。

就職氷河期の一九九七年の夏。短大卒業集のある出版社の最大手は文藝春秋さんで、母校出身の先輩へOG訪問もした準備万端の本命だったのですが、見事に落ち、そのほか出版関連会社の就活も全滅。他業種の内定はいくつかとっていたものの「出版社に入って本をつくりたいけど、どうしよう」とぼんやり考えていた時のことです。その後、

もうこれが最後、というお盆過ぎに理系の出版社より内定を頂き、編集部に配属されたところから出版の仕事にすることができました。

でも、あの時、出版社へ就職できていなかったら？ 新橋へお日様が沈んでから出勤して、本ではなくお疲れ様の一杯を作っていたかもしれません。

自己紹介が遅れました。堀之内出版の小林えみと申しませす。堀之内出版は二〇一一年にNPO法人POSSSEが雑誌『POSSSE』を発行するために創立した会社です。私は、新卒入社後、何度かの転職を経たのち、ボランティアとしてPOSSSEに参加したご縁で、二〇一三年から堀之内出版で仕事をしています。二〇一七年現在は、経理担当社員を増員、私を含む社員二名と発送などのアルバイトで切り盛りしています。

私が入社して、まず一番大きく変更したことは、流通を取次経由からトランスビュー直取引代行（書店との直取引。発送と伝票をトランスビューがとりまとめている）へ変更したことです。出して撒けば売れる時代ではない中で、中小規模の版元が書店さんと密に関わって迅速な対応ができること、その本を売る現場への利益率が高いことをメリットと考えました。編集者は基本的には本を作るまでの職業ですが、いま、堀之内出版が小さい会社で編集と営業の分業がされていないからというだけでなく、本が読者に届きにくい現状としては、流通・販売について編集者も関心を寄せた方がよいのではないかと考えています。

編集・営業の仕事内容としては、年に季刊誌『POSSE』を四冊、月刊誌『KOKKO』を十二冊、不定期刊行雑誌『nyx<sup>ニユクス</sup>』を一、二冊、単行本を三、四冊編集発行しながら、書店さんへの営業やイベント手配などを行っています。『POSSE』はNPOが、『KOKKO』は国公労連が編集をしています。同業者の方には大体「仕事多すぎない？」と言われます。正直に言えば、多い。この特集は「一冊入魂！ 編集の愉楽」ですが、お話を頂いて、私で良いのかなあ、とちょっと躊躇したのは、「一冊入魂」というには、数で言うはずいぶん魂を叩き売りしてるからなあ、ということでした。

先日、知人の編集者と話をしているなかで「小林さんが、

ほんとうに作りたい本ってどういうの」と聞かれました。これも入社試験のような質問ですね。その時、私は「特にこれというものはないです」とお答えして、驚かれました。入社試験だったら、落とされそうです。

大学で研究をされていた方が専門知識をいかして編集者をされている場合がありますが、そうした出自でもなく、特定の趣味もありません。また、企画を主導されるタイプの編集者と著者を支えるタイプの編集者がいると思います。後者であって、著者からでてくるコンテンツをより多くの読者に届けるための演出や書籍へのパッケージ化をしたい。

「暗闇の中で、見えない池へ向かって石を投げる」。本を企画するときに、私がイメージしていることです。月明りもない闇夜のむこう、離れたところに池があつて、そこへ向けて小さな石を投げる。本当に届くのか、よくわからない。ただ、届くと思ってるから投げる。読者があらかじめわかつていてつく本もあります。しかし、本を作っていて最高に愉楽を感じるの、読者がいるのかわからない暗闇へ向けて、全力で自分がダイヤモンドだと信じる石、コンテンツを投げることなのです。

さて、この回答で入社試験は通りそうでしょうか。我ながらずいぶん野蛮だな、と思います。時折、不明を恥じ、この本は私が担当でよかったのかなあ、と迷いを感じることもあります。それでも、投げ続ける。

私が暗闇へ向けて放った「二冊入魂の書」は雑誌『nyx』創刊号。二〇一五年一月に創刊した思想誌です。不定期刊行誌で、二〇一七年八月に最新号の四号を刊行しました。どの号も魂を込めています。創刊号は特に思い出深い一冊です。

この雑誌の発端は『POSSE』の連載「労働と思想」でした。この連載は各号ごとにひとりの思想家における労働観をおひとりの方に紹介してもらおうのですが、ここへ書いてほしい優秀な人文・思想の研究者は大勢いました。しかし季刊誌で一年に四名、決まったテーマでしかお願いできないのはもったいない、何かできそう、と考えたのです。そのアイデアを、当時フンボルト大学へ留学中だった齋藤幸平さん（現在、大阪市立大学准教授）にご相談したところ、この話を面白がってください、ご協力頂くことになりました。そして、齋藤さんからご紹介頂いたのがバタイユ研究者の佐々木雄大さん。とても博識なお二人が相談役となって下さることで、『nyx』は単なる思い付きから、思想誌としての確かな骨格をもつことができました。

私自身に分野の専門知識がないことは先述の通りですが、自分がわからないことは、きちんと専門の方のお力をお借りします。お二人は私の想定以上に、とても親切に創刊の準備にお付き合い下さいました。と書く綺麗にまとまっています。実際には、私が本当に人文学の何にも知らず考えず言いつばなし、もごもごと何を言ってるのかよくわか

らないことを、お二人はおそらく内心イライラしながら辛抱強く回収して下さいたのだと思います。齋藤さんがドイツにおられたため、メールでのやりとりだったからこそ成立したのであって、もし対面だったら、企画打ち合わせ三回目くらいで険悪ご破算になっていたかもしれせん。

のちに『nyx』第二号第一特集「ドイツ観念論と理性の復権」の主幹をして頂いた三重野清顕さん（東洋大学准教授）にも、よく色々なご相談をしているのですが、冗談半分に「あんなに厳しい二人に相談しなくてもよかったのに」と言われたことがあります。でも、それくらい内容に妥協しない厳しいお二人だからこそ良い企画にすることができました。

お二人への謝意は本心なのですが、やりとりの度の感謝に、だんだん感謝の激安大量発行状態に。そんなことを茶化したり、私が自分が至らないことに弱気になったりしつつ、ただひたすら雑誌についてああでもない、こうでもない、と意見を交わしあうのは、とても楽しい時間でした。お互いのプライベートのことはほとんど知りません。準備段階から三年目になりますが、三人で直接会ったのは一度切りです。これからも、そういう機会はないかもしれませんが、創刊に至るやりとりは本当にかけがえのないものでした。そしてそのように制作者が面白がるのが工夫につながり、「これは面白そうな本だ」と読者へ伝わるのだと思います。

# 藤原書店

## 完本 春の城

石牟礼道子

半世紀をかけ完成した、天草・島原の乱を描く最高傑作。解説=田中優子 赤坂真理 町田康他 4600円

## 日本思想の古層

梅原 猛 川勝平太

哲学界の最長老と、海洋史観の提唱者が徹底討論！ 美・平等・平和の思想を発信する。1800円

## 凜 (新版)

近代日本の女魁・高場乱

永畑道子 近代日本を創った玄洋社生みの親を描く！ 序=小林よしひら 解説=石瀧豊美 2200円

## 核を葬れ!

森瀧市郎・春子父娘の非核活動記録  
広岩近広 「核兵器禁止条約」につながら「核と人類は共存できない」(森瀧市郎)の思想。2600円

## 多田富雄コレクション 全5巻

2 生の歓び [食・美・旅]

解説=池内紀 橋本麻里 国内外を旅し、風土に根ざす食・美を描く名随筆。◎内容見本呈 2800円

## EU崩壊

秩序ある脱=世界化への道

J・サビール [ユーロ解体]こそ欧州を救う。「保護主義」論客による問題作。坂口明義訳 2800円

## 叢書『アナール 1929-2010』

歴史の対象と方法 全5巻

ル=ロワ=ラデュリ他監修 完結！  
世界に先駆けつけた日本オリジナル版。  
浜名優美監訳 セット計4万円

月刊 機

B6変32頁 8月号 No.305  
及川淳子/(大田昌秀  
さんを偲ぶ)/山田慶  
兒/川勝平太/大城  
立裕/平川祐弘/加藤晴久/中西  
進/中村桂子/横佐知子等。

年間購読料2000円(送料込) ◎見本誌・ブックガイド呈 \*表示価格税抜  
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523  
振替 00160-4-17013 TEL 03-5272-0301  
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

雑誌の名前は、あまり良い案が浮かばず、色々な辞書を読んでいた中で、ギリシャ語の「nyx」(夜、またギリシヤ神話の夜の女神の名前)が候補のひとつになりました。そこですんなり決めた訳ではないのですが、ヘーゲル『法の

ぼくら以外のところであって、しかもぼくらのあいだに共通のある目的によって、兄弟たちと結ばれるとき、ぼくらははじめて楽に息がつける。また経験はぼくらに教えてくれる、愛するということは、おたがいに顔を見あうことではなくて、いっしょに同じ方向を見ることだ。

サン・テグジュペリ『人間の土地』堀口大樹 訳

哲学』の序文の有名な一文、「ミネルバの梟は黄昏時に飛び立つ」の、梟が飛び立った黄昏のあの「知的な王国」、さまざまな思想家がモチーフとしていることなど、言葉のイメージが膨らみ、ひとつくちに思想といってもそのなかで展開されている多様な研究を包括できる言葉として良いのではないかと、いうことで「nyx」にしました。こうしてイメージやコンセプトが固まってきた段階で、「創刊の辞」を齋藤さん、佐々木さんにご執筆していただきました。この文章が「nyx」の核としてずっと大事にしている文章です。

「nyx」の装丁担当はフォントデザイナー・装丁家の大崎善治さんです。基本的に文字だけの雑誌であるため、本文組版・フォントにこだわりたいということで、大崎さんをお願いをし、ご快諾頂きました。ロゴも大崎さんによる作品です。「nyx」のコンセプトをお伝えし、出てきたのは真っ白な表1に端正にならぶ文字。それを開くと、夜の闇のような黒に、エピグラフが刻まれています。読者

の感想で「オシャレ」「かっこいい」というご感想を頂くことがあります。本の本質的なところではないかもしれませんが、読者へ届いたこと、本に触れて喜んでいてという方がいることを素直に喜んでいきます。

書籍、中でも人文書の売上が下がっている状況は、個々の版元や作品でのヒットもありますし、全体を悲観すべきとは思いませんが、どのようにより多くの方へ届けていくか。そのことへの方策のひとつとして、私は書籍の美しさ、手に取る楽しさも手段にしたいと思っています。

創刊号の特集は二つ、第一特集は佐々木雄大さん主幹の「(エコノミー)概念の思想史——アリストテレスからピケティへ」、第二特集「現代ラカン派の理論展開」は松本卓也さんに主幹をして頂きました。以降、一号に二つの特集をいれるスタイルで刊行しています。どの特集も素晴らしい主幹・寄稿者に恵まれ、おかげさまでご好評を頂いております。

しかし、なぜ私は人に本を読んでもらいたいのでしょうか。本を読まなくても生きていけるし、本が好きではないという方に無理強いをする気はありません。「特に作りたい本はない」にも関わらず、ではなぜ本なのか。

ひとつの古い記憶があります。三歳の冬、かなり大きな火傷を負いました。長い入院を経て、久々に登園したカト

リック系の幼稚園で、老齢のシスターが個別に付属の聖堂へ連れて行ってくださり、「辛いことはたくさんありますが、あなたは本がお好きだから、これからもたくさん読みなさい。それがあなたを助けます」と、一冊の聖書を頂きました。クリスチャンではありませんが、その聖書は今も手元にあり、繰り返し読んでいます。遠い地の古い言葉が、本という形で私に届き、私を救ってきました。

出版界に関わって、質、量ともに私よりもっと本を読む方を知ると、私は大したことないなあ、と思います。本が人を救う善きものである、ということを感じていたからこそ、人生において、本にこだわってきました。

『nyx』第四号第一特集「開かれたスコラ哲学」で、『神学大全』の邦訳に尽力された稲垣良典先生にインタビューをさせて頂いております。その一節に、個人的にとっても感銘をうけました。

稲垣 信仰の知的なポテンシャルというものを、近代は見失っていると思うんです。信仰の知的な要素、つまり信じるということが、われわれの知的な探求の領域を広げてくれると考えず、知的探求とは別のことだというふうはどうしても考えてしまう。カントは、信仰に場をあげるために知を制限しなければならなかった、と言っていますが、むしろ信仰によって知の範囲は広がると思います。



**有斐閣** 出版案内  
(面格は税別)  
 東京・神田 神保町2/1et03-3265-6811

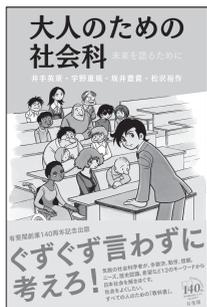
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

## 大人のための 社会科

未来を語るために  
 井手英策・宇野重規・  
 坂井豊貴・松沢裕作 著

四六判 1,500円+税

気鋭の社会学者が、日本社会を12のキーワードから解きほぐす。「反知性主義」が幅をきかせる時代に、わたしたちが考え、将来を語り合うための、「大人のための教科書」の誕生！



## ファッションで 社会学する

藤田結子・成実弘至・  
 辻 泉 編

四六判 2,300円+税

「ファッション」を通して学ぶ、画期的な社会学入門書。ファッション誌のメディア史から最新の文化事象の分析まで、オーソドクスな社会学的思考にアプローチする、ファッション「で」学ぶ社会学。

◎図書目録送呈◎

集者である私の役割ではないかと思うのです。「暗闇の中で、見えない池へ向かって石を投げる」、それは空間的にだけでなく、時間的に私が生きて確認できない百年千年の先の読者へもまた、投げているのです。

ここでの「信仰」はカトリックの信仰のことですが、「信仰によって知の範囲が広がる」という言葉に、信じていることがあるからこそ、未知の領域にも恐れず挑むことができる、ということを改めて教わったように思いました。「nyx」は、不勉強な私にはずいぶん高度な内容です。専門性が高い分野へ野蛮に踏み込むことのためにはあります。しかし、私が今更専門性を追求すれば、良い本が作れるとも思いません(もちろん、そうした知識を生かして精緻な本が作られることは重要で、それは別の方のお仕事だということです)。光る高みへ野放図に手を伸ばし、その全てを直接理解できていなくても、そこに光があること、高みに触れる面白さを伝え、知や言葉を広く世に伝播すること、遠い未来へ、また言葉が繋がります。それが野蛮な編集者である私の役割ではないかと思うのです。

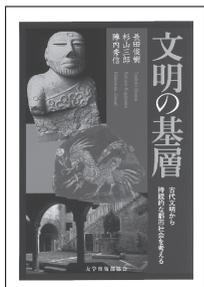
別の職業の人生もあったのかもしれない。ただ今は、本を作ること、「nyx」をつくることでできてよかったと感じています。また、これからも精進しながら、私にできる仕事、掴んだものを力いっぱい引き寄せ、本という形にして未来へ投げていることをしていきたいと思えます。

歴史の夜の深い闇の中から浮かび上がる一筋の光が、学問と世界における困難な情況への道標となることを願って。(「nyx」創刊の辞より)

# 大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立日比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹 おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)  
杉山三郎 すぎやまさぶろう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学部教授)  
陣内秀信 じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

## 文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5判・80頁／定価(本体1,200円+税) ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

### 〈主要目次〉

第一章 インダス文明：ネットワーク都市——中央集権的文明観を覆す(長田俊樹)

「大河文明」は本当か？—広大なインダス文明／インダス文字とインダス印章／草原の遺跡、海岸沿いの遺跡—大河から離れて／砂漠の遺跡の謎／「城塞」と「パスポート」—都市ネットワーク論に向けて／墓から見えるもの—格差の不在／砂丘が先か、文明が先か／インダス文明は大河文明ではなかった—農業と水害の視点／古代文明観を見直す—「穀物倉」と「アーリア人侵入説」／文明の衰退について考える／ゆるやかなネットワークの存在／都市社会をどう見るか—中央集権的文明観からの解放

第二章 新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市(杉山三郎)

閉ざされた空間の多様性／文明の萌芽／認知能力＝知恵こそが、文明の基盤をなす／中規模都市ができて始める／完全計画都市、テオティワカン／多くの人を迎える巡礼地として／暦と数の体系／「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性／墓は語る／古代人の交流—物を集めるネットワーク／文明の確立から崩壊へ—伝わり、つながる文明の諸要素

第三章 水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ(陣内秀信)

水と共生する町、ヴェネツィア／逆・中央集権的構造都市—複雑に交差する水と陸のネットワーク／都市を解読する／交易都市から文化都市へ／オリент志向と柔軟性／分散的都市から統合的都市へ／なぜ都市に人が集まるか／城壁の無い町／都市モデル再考／川が結ぶネットワーク／水車の活用／考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える／ヴェネツィアの食と産物のネットワーク／ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫—文化都市から環境都市へ

## 大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

二〇一七年度夏季研修会が開催される  
地方大学の定員割れが言われてから久しいが、この六月、学生の都心集中を是正する目的で、都内二三区の私立大学では原則として定員増を認めないとの閣議決定がなされたという。その背景に地方県の首長らの意向が強くあつたというがこの論理、ちよつと単純すぎやしないだろうか。ここには地方衰退にひそむ本質的な問題解決や、大学の質的次元に言及する一言半句も見当たらないのである。教育の問題は各野から集まって日々こまかい議論を重ねておくべきである。

八月に札幌市で開かれた協会の研修会で、地元の櫻井義秀先生（北海道大学文学部教授・北海道大学出版会理事長）から「大学における教養主義と大学出版会のゆくえ―単なるサバイバルをこえて」と題されたご講演をいただき、聴者の一人として少なからぬ示唆を受けた。著者としてのご自身の経験も踏まえながら、学術出版を取り巻く環境の変化、情報社会と知識社会の功罪、国立大学の近未来戦略あるいは財政の逼迫、北大出版会が行きあたる経営課題について、等々。大学内部にあつて、たとえば教員が何人も辞めていくような現実を背負いながら真摯に訴えられる姿が目に残った。

一方、「商業出版社と大学出版部―経済書編集者の立場から」の講演では、日本経済新聞出版社で長く編集の仕事を経てこられた増山修氏（慶應義塾大学出版会）の自己体験に即した実話を拝聴することができた。対象をバツサリ斬る感じの喋り方で、それでいて妙味があるというか粘りある口調に、ペテラン編集者の自信と気概がうかがえた。印象に残ったのは、先の櫻井先生の話にも感じられたことだが、大学出版部にとつての「大学」はブランド（信用）であるというご意見である。ここはそれぞれの大学の名前の差もあることはあろうが、母体の恩恵について再認識できたことは私にとつても幸いであつた。

研修最終日は数人で連れ立って、事前から希望していた北大構内にある総合博物館を見学した。この昭和四年建築のモダンゴシック風な旧理学部本館の施設には、明治九年（一八七六）札幌農学校からはじまる大学の重厚な歴史と精神、三百万点をこえる医学・古生物標本や資料類が多数展示されている。創立精神を担った新渡戸稲造や内村鑑三の形跡、近年ではノーベル化学賞の鈴木章名誉教授記念展示室などもあつて、思いがけず大学という寸時の夢にひたることができた。

## 北海道大学出版会

- ▼櫻井義秀編著『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』（A5判・四九〇頁・七五〇〇円）フィールド調査に基づき、東アジア各国の宗教多元化状況と宗教政策の動き、特質を明らかにする。
- ▼櫻井義秀著『人口減少時代の宗教文化論―宗教は人を幸せにするか』（四六判・二九四頁・二六〇〇円）。現代社会の諸問題や宗教との関わりを様々な局面から叙述、宗教の将来を展望する。
- ▼仁平尊明編著『悩める人間―人文学の処方箋』（四六判・二七二頁・二四〇〇円）人生に悩みはつきもの。古今東西の文学や思想、社会科学の知見から「悩み」というテーマを掘り下げる。
- ▼白木沢旭児編著『北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会』（A5判・五一〇頁・八二〇〇円）。ロシア、中国、日本という帝国の勢力圏が交錯する北東アジアを、地域社会に焦点を当て考察。
- ▼越前谷宏紀・田中嘉寛・高崎竜司・田中公教著『北大古生物学の巨人たち』（A4判変型・九六頁・二〇〇〇円）初代から第五代教授の功績を振り返り、収集化石標本をプロによる標本写真で紹介。

## 弘前大学出版会

- ▼石井忠、石水毅、梅澤俊明、加藤陽治、岸本崇生、小西照子、松永俊朗編著『植物細胞壁実験法』（B5判・四〇四頁・五五〇〇円）植物細胞壁に関する最新の実験書である本書は基礎編と応用編の二部構成。第一線の研究者が、これから研究を始める人の立場に立って記述した本であり、植物科学・木質科学・資源科学などの分野の大学学部生や大学院生のための実験書として、また、研究者や技術者のためのマニュアルとして有用である。
- ▼弘前大学白神自然環境研究所編『白神学入門（2017）』（A4判・一〇〇頁・一八〇〇円）十七名の教員が自らの研究を中心に様々な角度から白神山地の人や動植物のくらし、自然環境を紹介。学問分野としては気象学、地質学、考古学、地理学、古生物学、生態学、発生学、分類学など多岐にわたる内容を絞った書籍は数多くあるが、これほど広い分野の研究活動を簡潔にまとめたものは他に例がない。白神山地について幅広い知識を得たい方々に是非手に取っていただきたい一冊。

## 東北大学出版会

- ▼渡辺美奈子著『ヴィルヘルム・ミュラーの生涯と作品「冬の旅」を中心に』（A5判・二〇八頁・四〇〇〇円）シューベルトの連作歌曲『冬の旅』は名品として世に知られるが、その詩を書いた詩人ヴィルヘルム・ミュラーの名はほとんど忘れ去られたままと言っても過言ではない。ナポレオン戦争前後の困難な時代を誠実に生き抜いた詩人の生涯を丹念にたどり、伝記的事実がどのように詩句に移し換えられ、美しい歌曲へと昇華されていったかを綿密に読み解く、わが国初の本格的なミュラー研究書。
- ▼水原克敏・足立佳菜・鈴木学編著『増補改訂版 学校を考えるっておもしろい!! 教養としての教育学 TAととにも創るアクティブ・ラーニングの大規模授業』（A5判・三六〇頁・二〇〇〇円）学校って何だろう？ 社会の変化とともにかたちを変えてきた「学校」の姿を、時代ごとの教育課題、国の対応とあわせ、写真やグラフを用いて説明。二〇〇六年刊行の初版に「第3部 TAと共に授業を創る」を増補し、より現代的な視点から学校を考える。

## 流通経済大学出版社会

▼中谷秀樹編著・清水久仁子共著『観光と情報システム』（A5判・二六四頁・一八〇〇円）本書は二十一世紀のグローバルな社会において観光のプロフェッショナルを目指す学生、ビジネスマンが情報競争を生き抜くために不可欠な書である。



▼「スポーツの世界を学ぶ」編集委員会『増補・改訂版』『スポーツの世界を学ぶ―スポーツ健康科学入門』（A5判・一六六頁・一四〇〇円）本書の全体的な構成は、はじめにコーチング領域、続いて医学的領域、トレーニング論領域、スポーツ社会科学領域とし、読者に前後で関連領域が把握できるようにになっている。



## 聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・川並珠緒・関口明子・羽生和夫著『幼児理解と一人ひとりに応じた指導』（B5判・一一六頁・一五〇〇円）

幼児理解と指導について網羅した一冊。

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『改訂版 一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなが進める特別支援』（A5判・二一八頁・一五二八円）

初学者のための特別支援教育本。

▼川並知子・広瀬知里著『子どもと親のためのおりがみアイデア』（B5判・一二八頁・一五〇〇円）

幼児から大人まで楽しめる折り紙遊び本。

▼川並知子著『さくら紙あそび』（B5判・六四頁・六五〇円）

さくら紙（お花紙）のあそび方の決定版。

▼村井靖児著『音楽療法を語る―精神医学から見た音楽と心の関係』（四六判・二八〇頁・二〇〇〇円）

音楽療法の第一人者である著者の集約本。

▼森彪著『医における癒し―人間関係の形成のなかから』（四六判・二八〇頁・二〇〇〇円）

医療現場での人間的交流の必要性を説く。

## 麗澤大学出版会

▼梶田幸雄他著『中国対外経済戦略のリアリティー』（A5判・二四八頁・二七〇〇円）。アジアインフラ投資銀行の発足を受けて、二〇一六年中国の「一帯一路（新シルクロード）」構想及び「走出去」（中国企業の対外直接投資）「戦略が本格的に始動した。中国の意図を整理し、構想と戦略を実施する上での国内外における要件、課題、国内産業への効果について分析・検討し、今後の発展を予測する。

▼孔徳成著／淡島成高編訳『孔子直系第七七代 孔徳成が説く孔子の思想』（A5判・カラー口絵二十頁・本文二八八頁・一八〇〇円）。台湾大学等で、五十余年、古代の「礼学」研究、「金文」研究と教育に心血を傾けられた孔徳成氏の講演集。民族・国家・宗教の対立等、多くの問題に直面する現代にこそ求められる孔子の「仁」（愛・慈しみ、思いやり）の精神。その要諦を分かりやすく語る。



## 慶應義塾大学出版会

- ▼アーサー・C・ダント著／松尾大訳『ありふれたものの変容―芸術の哲学』（四六判・三六八頁・四六〇〇円）芸術の表象を独自に解釈し、メタファー、表現、様式を体系的に説明する。豊富な例を引きながら、なぜ平凡なものが「芸術」に変容するのか、芸術をどのように定義できるのか、哲学的に明らかにしていく。
- 二〇世紀美学最大の成果。
- ▼下田健太郎『水俣の記憶を紡ぐ―響き合うモノと語りの歴史人類学』（A5判・二九六頁・五〇〇〇円）「一人の私」に立ち返る―。モノや語りを媒介としながら、今なお生きられる水俣病経験のダイナミックなありよう、被害/加害の対抗図式を超えて、「当事者」の「顔」を描き出す、気鋭の力作。
- ▼中森弘樹『失踪の社会学―親密性と責任をめぐる試論』（A5判・三六八頁・四二〇〇円）失踪とは何か。その不条理さ、不可解さ、やりきれなさは、何に由来するのか。失踪が惹起する実存的な問いを突きつめ、あなたや私がそこにいる、という一見自明の事態を根底から見つめなおす、気鋭の力作。

## 専修大学出版局

- ▼根間弘海著『大相撲立行司の軍配と空位』（A5判・二五八頁・二六〇〇円）大相撲行司の軍配の房色と形、江戸・明治期における文字資料と錦絵の関係性、番付において行司がどのような方式で記載されてきたのか、その様式の変遷、立行司における空位および過去の人事動向、現役行司の軍配についてのアンケート調査記録など、大相撲行司に関する七つの論考からなる大相撲行司研究本。ひと味違った側面から大相撲を楽しむことができる好評シリーズ第五弾。
- 根間弘海著 大相撲行司シリーズ既刊書
- ▼『大相撲行司の房色と賞罰』（A5判・二一四頁・二六〇〇円）二〇一六年刊。大相撲行司の房色と階級、行司の階級の昇降、戦後行司の年譜など七つの論考。
- ▼『大相撲行司の軍配房と土俵』（A5判・三〇〇頁・三二〇〇円）二〇一二年刊。横綱土俵入りと行司の着用具、木村姓と式守姓、行司の改名などの視点から大相撲行司を考察する。

## 大正大学出版会

- ▼大正大学地域構想研究所編『地域人』（A4判・平均一四四頁・一〇〇〇円）毎月十日発売「現代社会の最優先課題は、地域創生にある」をテーマに、地域の実態理解と再生の方法論をさまざまな視点から紹介する地域情報満載の総合情報誌。地域特集では、現地取材をもとに、物事を経済的視点だけから見るとはならず、多様な文化、歴史、暮らしに至るまでを掘り起すことを目指している。一方で、地域創生とは何かを豪華連載人による、人口、産業、食文化、リノベーション、ふるさとと信仰など、社会から心の問題まで幅広い提言を毎号掲載する。
- 第二四号 特集「人口減少で日本消滅!?!」『未来の年表』河合雅司の日本を救う10の処方箋/処方箋1・「高齢者」を削減―働く意欲の高い高齢者を積極雇用「90歳まで現役」を目標に定年制を廃止した企業―ほか



## 玉川大学出版部

▼『井上洋介絵本画集 1931-2016』(A4判・八〇頁・二〇〇〇円)「くまの子ウーフ」シリーズの挿絵など、絵本・児童書の挿画で多くの人に知られるようになった井上洋介。絵本作品のうち三四作の原画や絵本を年代順に掲載。京極夏彦や片山健らのエッセイも収録。作品データには英文キャプション付き。



▼『井上洋介獨画集 1931-2016』(A4判・三三六頁・一三〇〇〇円)一九五〇年代からのタブロー画二六〇作を三つの時代に分けて掲載。井上の画家としての核となる表現に光をあてる。種村季弘のエッセイや長新太、草森紳一との対談も収録。略年譜と詳細な書誌情報付き。



## 中央大学出版部

▼中央大学経済学部編『高校生からの経済入門』(四六判・一九二頁・九〇〇円) 高校生のみなさんの日常生活は、経済と無縁ではありません。コンビニで買い物をする、電車に乗るなど、お金を払って企業の提供するモノ(財・サービス)を購入しています。これらは全て経済活動です。経済活動の仕組みを学び、経済活動により発生するさまざまな問題を改善する方法を考えるのが経済学です。経済学では現実の経済問題を「理論」、「歴史」、「制度」の多角的な観点から考察し、各観点からの分析に基づき、個々の経済問題に対して政策提言を行います。グローバル化が進んだ今日、高校生のみなさんの将来の活躍の場は、国内にとどまらず海外にも拡がっています。企業人、公務員、政治家にとっても、世界で戦うためには、経済学の学修が必須となっています。お小遣いから国の予算、はては地球環境まで、幅広いテーマを中央大学経済学部の若手教員が語りかけ、経済学の学びへと誘います。

## 東京大学出版会

▼瀧川裕英著『国家の哲学―政治的義務から地球共和国へ』(A5判・三七六頁・四五〇〇円)個人の義務への問いを起点に世界秩序構想を辿る思想の旅。ソクラテス、ホッブズ、カント、ロールズ、サnderl等、古今の思想を渉猟し、国家と法をめぐる根本問題に挑む。

▼田村隆著『省筆論―「書かず」と書くこと』(四六判・三〇〇頁・二九〇〇円) 叙述においてあえて「書かない」と書くことで、作者は何を表現したかったのか『源氏物語』を中心に、叙述のレトリックをめぐる裏側からの文学論。

▼田中純著『歴史の地震計―アビ・ヴァールブルク』『ムネモシユネ・アトラス』論』(A5判・三六七頁・四八〇〇円) 特異な美術史家ヴァールブルクが作り続けたイメーシの地図帖(アトラス)に宿るアクチュアルな歴史を解放し、ありえなかつたはずの過去に触れる。

▼梶光一・飯島勇人編『日本のシカ―増えすぎた個体群の科学と管理』(A5判・二七二頁・四六〇〇円) 爆発的に増加したシカを科学的に管理する生態学的情報について解説し様々な取り組みを紹介。

## 東京電機大学出版局

- ▼加藤政一著『詳解 電力系統工学』（A5判・二九六頁・三三〇〇円）電力系統の概要および技術について詳しくまとめた。近年の電力自由化における発送電分離や、スマートグリッドなどにも触れている。
- ▼裕文夫著『面心の代数幾何学』（A5判・二二四頁・三二〇〇円）面心を題材として代数幾何学を学ぶ入門書。面心とは全ての面積が等しくなる点のこと。代数幾何学の本質に迫る。
- ▼牧野浩二著『たのしくできる Intel Edison 電子工作』（B5判・一七六頁・二五〇〇円）シングルボードコンピュータ「Intel Edison」を使いこなすための入門書。Arduino拡張ボードを使用してプログラミングや電子工作を解説。
- ▼西田和明著『たのしくできる 光と音のブレッドボード電子工作』（B5判・一一二頁・一八〇〇円）サンハヤトの小型ブレッドボード・キットを使って楽しく電子工作ができる。電子ホタルや電子ギター、電子オルガンなど作りながら、電子回路の動作原理を理解することができ。

## 法政大学出版局

- ▼土田知則著『現代思想のなかのブルーリスト』（四六判・二六八頁・二九〇〇円）ベンヤミン、バタイユ、バルト、ドゥルーズら、綺羅星のごとき思想家たちは、二〇世紀小説の金字塔「失われた時を求めて」に何を見たのか。
- ▼P・ブーレーズ、J・P・シャンジュール、P・マヌリ著／笠羽映子訳『魅了されたニューロンの脳と音楽をめぐる対話』（四六判・二五八頁・三六〇〇円）現代音楽家と神経生物学者の刺激的な対話。巨匠ブーレーズの生前最後の書物。
- ▼M・B・ハンセン著／竹峰義和・滝浪佑紀訳『映画と経験―クラカウアー、ベイヤミン、アドルノ』（四六判・六九八頁・六八〇〇円）いまだに予感しえない未来を生じさせる試みにおいて、映画の可能性とは何か。フランクフルト学派の批判理論と映画学の思考が交差し追究する。
- ▼G・ペーム著／塩川千夏・村井則夫訳『図像の哲学―いかにイメージは意味をつくるか』（四六判・三二〇頁・五〇〇〇円）あらゆるジャンル一〇〇点以上を例に図像の意味を哲学的に考察する。叢書ウニベルシタス初のオールカラー。

## 武蔵野大学出版会

- ▼阿部和穂『認知症 いま本当に知りたいたいこと101』（A5判・二二二頁・一五〇〇円）「〇〇で認知症が治ったってホント?」「同じ話を繰り返すのは認知症?」「血圧の薬は認知症になりやすい?」巻にあふれる認知症の101の疑問を薬学部の教授がQ&A形式で解説!



- ▼ケネス・タナカ編著『智慧の潮 ― 親鸞の智慧・主体性・社会性』（A5判・三四四頁・三〇〇〇円）「信じる宗教」とされている親鸞の思想だが、その本質は極めて多面的で重層的なものである。初期仏教や大乘仏教で重要視されてきた「智慧」「主体性」「社会性」に焦点を当てて一三名の研究者が多様な見解を試みる。
- ▼樋口一葉著／千明初美漫画『漫画版文語』たけくらべ』（A5判・二四〇頁・二五〇〇円）『たけくらべ』の原文（文語）を漫画のフキダシに収めて解説した、まったく新しいタイプの文学BOOK!

## 武蔵野美術大学出版局

▼高島直之著『芸術の不可能性 瀧口修造・中井正一・岡本太郎・針生一郎・中平卓馬』(四六判・一九二頁・二四〇〇円)  
瀧口がアンドレ・ブルトンの『超現実主義と絵画』を訳出したのは一九三〇年以来、一九七七年に中平と篠山紀信のセッシヨン(『アサヒグラフ』連載)をまとめた『決闘写真論』が刊行されるまで一つの区切りに、前衛芸術受容の日本的困難と屈折を社会的事象とともに論じる。瀧口はシュルレアリスムに芸術の唯一の可能性を見出し、美学者・中井は美のうちに韻律の史的構造と反復を措定し、岡本は徹底的な他者として『日本の伝統』に対峙した。『岡本太郎その歴史的位置』では岡本の作品論とともに、彼の対極主義、縄文土器論の背景に西田幾多郎の「絶対弁証法」への反発があることを丁寧に検証する。針生は政治と芸術の二元論的拘束からの解放を模索し、中平はシュルレアリスムの手法によって政治と芸術の相克を超えようと自ら一個の事物と化した。詩的言語と論理的言語の矛盾のなか、芸術の不可能性に賭けた五人の実践のあとを克明に辿る。

## 明星大学出版部

▼須藤康介『教育問題の「常識」を問い直す―いじめ・不登校から家族・学歴まで』(四六判・二八八頁・一八〇〇円)  
現代の教育問題は誤ったイメージに捉われていると、教育社会学の「理論」と豊富な「データ」を多用して解説。教育問題を正確に考察するための良書。  
▼斉藤政子編著『安心感と憧れが育つ「ひと・もの・こと」―環境との対話から未来の希望へ』(B5判・二八〇頁・二三〇〇円)  
保育のあり方を「ひと」「もの」「こと」の視点から考察。保育を志す学生、保育者・教員に豊富に教材を掲載する実践テキスト。  
▼明星大学教職センター編 教員を目指す君たちに受けさせたいシリーズ『面接試験対策講座』―教員になる覚悟を持つ(A5判・二五〇頁・一九五〇円)『面接の心得は教員を目指した志に振り返る事志を語るには：面接試験具体策を指南。』  
▼明星大学教職センター編 教員を目指す君たちに受けさせたいシリーズ『論文講座』―教員の見方・考え方が変わる第二版(A5判・一七八頁・一六〇〇円)  
論文文攻略術と方策を丁寧に説く実用書。

## 早稲田大学出版部

▼尾島俊雄編著『東京安全研究所・都市の安全と環境シリーズ』『超高層建築と地下街の安全』(A5判・一五八頁・一五〇〇円) 高層ビルや地下街は災害時に人びとが逃げ込むのに適した場所であるが、現在の受け入れ態勢は十分とはいえない。近い将来、高確率で発生することが予測される首都直下型地震に備え、高層ビルや地下街の安全安心対策を提言する。  
  
▼飯尾美沙『早稲田大学エウブラクシス叢書』『小児気管支喘息の患者教育』(A5判・二七八頁・三六〇〇円) 小児気管支喘息をはじめとする慢性疾患の患者は、長期にわたる疾患の自己管理が求められる。わが国では小児喘息の患者教育は十分に実践されておらず、またその手法も確立されていない。  
従来からの患者教育の長所をいかしつつ、時代の一步先を見据えた小児気管支喘息の患者教育法を提言する。

## 関東学院大学出版会

▼岩佐壯四郎著『点景 昭和期の文学』（四六判・二九六頁・二八〇〇円）この世は舞台、人はみな役者（シエルクスピア）というが、いうまでもないことながら、この舞台は歴史という（大きな劇）のそれであることを免れるわけにはいかない。川端康成・三島由紀夫・水上勉・野坂昭如・阿部昭・福田恆存・飯沢匡・井上ひさしらの作品を通して、「昭和」という舞台の複雑な表情に光をあてる。著者ならではの意表をつく読みを提示。近代文学・演劇研究者だけでなく、文学や演劇愛好家必読の論集。

【第一部】川端康成「化粧」「死者の書」／三島由紀夫「復讐」／水上勉「飢餓海峡ほか」／野坂昭如「火垂るの墓」／山本周五郎「赤ひげ診療譚」／井伏鱒二「集金旅行」／阿部昭「鶴沼西海岸」／岡松和夫「峠の棲家」

【第二部】稲垣達郎と北川清／川端康成と演劇―その背景／森本薫の出演／福田と飯沢「戦後という喜劇」／井上ひさし「連鎖街のひとびと」／チェーホフ「二〇一〇年のチェーホフ」／福田恆存「龍の手触り」

## 東海大学出版部

▼岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学 第4輯―特集 地域と賢治』（A5判・二三〇頁・二〇〇〇円）特集は「地域と賢治」。東北の現実や事情という地域性が賢治文学に与えた影響や関係性を考察。

▼手中正・小沢朝江編著『明王太郎日記（上）―堂宮大工が見た幕末維新』（B5判・四六四頁・七五〇〇円）相模国の堂宮大工の棟梁として知られた手中明王太郎影元が書き記した日記の翻刻。

▼平嶋義宏・広渡俊哉編著『教養のための昆虫学』（B5判・二四八頁・三〇〇〇円）。昆虫の体のつくりや生態の面白さを、著名な出版物等で使用された優れた線画、珍しい写真、イラストと共に分かりやすく紹介する。

▼志村博著・相川郁イラスト『トレニングという仕事―水族館トレーナーの知恵と技』（A5変型判・二〇〇頁・二四〇〇円）。元水族館シヨーマネージャーの著者が、テクニク・思考法を紹介。



## 名古屋大学出版会

▼池上俊一監修『原典 ルネサンス自然学』（菊判・上巻六五〇頁・下巻六五四頁・各九二〇〇円）万物をめぐる知の総体を集成―。身体から宇宙まで、料理から農事まで、魔術から機械まで、実験から教育まで……、本邦初訳テキストと貴重図版により「科学的人文主義」の精華をつたえる待望のアンソロジー。

▼イヴァン・ジャブロンカ著／田所光男訳『私にはいなかった祖父母の歴史―ある調査』（四六判・四一六頁・三六〇〇円）これは殺人捜査ではなく、生成の行為だ。二〇世紀の悲劇の連鎖のなか、二人はどのように生きたのか。それを調べ、記すことの意味とは何か。革新的な歴史叙述により、フランスでトリプル受賞。

▼L・A・ポール著／奥田太郎・薄井尚樹訳『今夜ヴァンパイアになる前に―分析的実存哲学入門』（A5判・二三六頁・三八〇〇円）進学、就職、転職、結婚、出産など、人生の岐路で大きな決断を迫られたとき、人は合理的に選択することができるのか。実存的な問いを分析哲学の視点から考える注目作。

## 名古屋外国語大学出版会

- ▼濱嶋聰著『アポリジニであること』(A5判・一二六頁・予価一二〇〇円・一〇月一五日刊行予定) オーストラリアの先住民民族アポリジニについての貴重な報告。わずか一三〇年で人口が四分の一に激減した彼らに、いったい何が起こったのか。数百も存在したオリジナルな言語は次々に消滅、文化や教育までが「同化政策」のもとに奪われていった。十年以上に及ぶ現地調査をふまえ、アポリジニ、さらにトレス海峡諸島民のたどった激烈な歴史、現状をわかりやすく解説する、画期的な学術ドキュメント。ブックレット版「名古屋外大ワークス」
- ▼城月雄大ほか著『街づくりの論理と心理』(仮題)(A5判・一一六頁・一一月刊行予定) 住民の心を育み地域再生に生かす新たな理論。街づくりという総合的なプロジェクト成功の鍵は、歴史・地理・そして心理にある。知られざるユニークな視点からの「新鮮で役立つ入門書」
- ▼『フランス語 はじめの1000語』(新書変型判・八〇〇円)
- ▼『中国語 はじめの1000語』(新書変型判・一〇〇〇円・八月刊)

## 三重大学出版会

- ▼松永伸太郎著『アニメーターの社会学―職業規範と労働問題』(A5判・二四九頁・二四〇〇円) アニメーターはなぜ過酷な長時間・低賃金労働を受容するのでしょうか。アニメーターへのインタビューの社会的分析から、やりがいだけではない労働受容の原因を明らかにします
- ▼永田成文・山根栄次編『持続可能な社会を考えるエネルギーの授業づくり』(A5判・一二八頁・一二〇〇円) 小・中学校の社会科学において、エネルギーの安定供給・持続的利用・社会との関係を考える授業の作り方を教えます
- ▼濱森太郎著『松尾芭蕉作『笈の小文』―遺言執行人は何をしたか』(A5判・二〇九頁・二七五〇円) 芭蕉紀行文『笈の小文』の成立を問い直す。遺言執行人各務支考は何を行ったのか。芭蕉の常識がゆらぎます
- ▼竹田寛・竹田恭子著『理事長の部屋から』(B5判・二二二頁・一八〇〇円) 桑名市総合医療センター理事長竹田寛による四季折々の花に関する随筆と写真、竹田恭子の心温かなイラストとともに文学、絵画、音楽、映画へと話が展開します

## 京都大学学術出版会

- ▼山名元・高橋千太郎総合編集、仲谷麻希構成『原子力安全基盤科学』全3冊(A5判、二六〇〜三六六頁) 東京電力福島第一原子力発電所事故後、原子力の利用や管理一般に関して科学的な議論や根拠に欠ける情報が錯綜し、市民が「何を信じてよいか分らない」状況を来しってしまった。市民が判断しようにも、基本的な資料がないという実情を受け、これまで説明されてこなかった原子力エネルギー全体の解説を、大学研究炉が理解しやすい形で提供する。構成①原子力発電所事故と原子力の安全(二八〇〇円)②原子力バックエンドと放射性廃棄物(二五〇〇円)③放射線防護と環境放射線管理(二五〇〇円)
- ▼櫻井正一郎著『京都学派 醉故伝』(四六判・四一〇頁・二〇〇〇円) 京都学派は西田らの哲学だけではなく、狩野らの東洋学、吉川・桑原らによる文学研究、今西の人類学などさまざまな学統を生み出した。酒の力、三高の気風があり、学問の異質性にとらわれない「文」の精神があり、人と人を結びつけた。学問とは、大学とは何かを考えさせる一冊。

## 大阪経済法科大学出版部

▼豊下楯彦、澤野義一、魏栢良編著『北東アジアの平和構築―緊張緩和と信頼構築のロードマップ』（A5判、二九一頁、二五〇〇円）【目次】・第一部 北東アジア情勢と平和構築の課題 第1章 北東アジアの構造変容と日本外交（豊下楯彦）第2章 北東アジアの平和構築（魏栢良）第3章 最近の北東アジア情勢の変化と新たな韓日間の平和構築（林承彬）第4章 朝鮮半島から見た日米同盟（康宗憲）第5章 米軍普天間基地「移設」問題に関する「安全保障」を利用したプロパガンダ（大城尚子）・第二部 平和と安全保障における自衛権論の検討 第6章 集団的自衛権と永世中立について（澤野義一）第7章 核兵器使用と自衛権（糟谷英之）・第三部 市民による平和と人権の推進 第8章 信頼醸成のためのアクターとしての市民社会のネットワーク（梅田章二）第9章 ソフトパワーとしての平和実践トレーニング（奥本京子）第10章 ドイツ・ポーランド関係に見る歴史和解と信頼構築（木戸衛一）第11章 日本社会におけるヘイト・クライム（元百合子）

## 大阪大学出版会

▼川島智生著『近代大阪の小学校建築史』（A5判・五三六頁・七七〇〇円）商都大阪の小学校は町単位で経営してきた伝統があり、各時代とも華麗な校舎の建築を実現した。それらの存在は失われたが、歴史に残す価値がある。成立経緯やスタイルの変遷、意匠の分野の手法や設計者についてもその系譜を叙述し、大阪の小学校校舎を総合的にたどって、小学校建築史の全容を解明を試みる。

▼足立泰美著『雇用と結婚・出産・子育て支援の経済学 女性のワーク・ライフ・バランス』（A5判・二四八頁・四八〇〇円）女性の就業を阻むものは、本当に結婚・出産や子育てなどのライフイベントなのか。今後の支援を検討する素材が本書にある。

▼嘉目道人著『超越論的語用論の再検討 現代のフイヒテ主義は可能か』（四六判・三一〇頁・三八〇〇円）フイヒテとの関連性から超越論的語用論を再評価し哲学的な位置づけの修正、直面する問題の解決、現代的意義の解明に取り組む。

## 関西大学出版部

▼廣川嘉裕著『政府―NPO関係の理論と動向―日・英・米におけるパートナーシップ政策を中心に』（A5判・一五六頁・一七〇〇円）NPOは公共サービスの供給、民主主義の活性化において大きな役割を果たす可能性があるが、そのためには政府・行政との適切な関係の構築が不可欠である。そこで本書では、日本、イギリス、アメリカにおける理論研究や実際の政策動向をもとに、NPOが独自の政治的・社会的機能を可能な限り発揮するための方策を探る。

▼亀井克之他著『市民マラソンがスポーツ文化を変えた』（A5判・一八四頁・一五〇〇円）二〇〇七年の第一回東京マラソン開催以来、「市民マラソン」がブームとなっている。本書は「スポーツ文化」をキーワードに、この社会現象にアプローチする。地域振興型マラソンのいすみ健康マラソンの事例、都市型マラソンとしての大阪マラソン、マラソン大会のリスク管理、新たなアスリート支援の可能性、スポーツ文化を軸にした広範なディスカッションを盛り込む。

## 関西学院大学出版会

▼足立里江・池埜聡著『ケアマネジメントにおける「援助関係の軌跡」―クライアントとの間にあるもの』（A5判・二三四頁・二二〇〇円）ケアマネジメントにおける援助関係を理論的・実践的に示唆。月刊誌『ケアマネジャー』での連載記事を発展的に加筆・修正。

▼ベルント・ハイネ著／宮下博幸監訳『ことばはなぜ今のような姿をしているのか―文法の認知的基盤』（A5判・二八八頁・三二〇〇円）言語と認知の関係とは。文法化研究や言語類型論の入門書、ベルント・ハイネ著『Cognitive Foundations of Grammar』を邦訳解説。

▼澤谷敏行・五藤勝三・河口浩編著『続大学職員のための人材育成のヒント―失敗事例から学ぶ若手・中堅職員の視点28』（四六判・一二四頁・一一〇〇円）大学行政の現場から28の人材育成失敗事例を収集し分析。多様な価値観から解決策を探る。若手職員の育成に重点を置いた続編。

## 広島大学出版会

▼伊藤敏安著『2000年代の市町村財政―「平成の大合併」と「三位一体の改革」の影響の検証』（A5判・一九七頁・二五〇〇円）地方分権一括法の施行、「平成の大合併」、「三位一体の改革」といった二〇〇〇年以降の制度改革は、市町村財政にどう影響したのか。合併市町村と非合併市町村を対照させながら、財政格差、普通交付税の肥大化の状況、合併を機会に膨張した職員数と議員定数の現状などを丹念に検証している。終章では、合併市町村・非合併市町村を通じて顕在化してきた新たな課題を整理している。



（近刊）  
▼衛藤吉則著『西晋一郎の思想―広島から「平和・和解」を問う』（A5判・予価三〇〇〇円）京都の「西田（幾多郎）」広島の「西」と称された西晋一郎博士の思想に迫る。

## 九州大学出版会

▼P・A・アドラー&P・アドラー／住田正樹監訳『ピア・パウリー子どもの仲間集団の社会学』（A5判・四〇〇〇円）  
▼北九州市立大学監修／竹川大介著『野研！大学が野に出た―フィールドワーク教育と大学堂』（シリーズ北九大の挑戦4）（B5判・一八〇〇円）  
▼篠崎香織『ブранаカンの誕生―海峡植民地ベナンの華人と政治参加』（A5判・五四〇〇円）

▼針貝綾『ユージェントシュティルからドイツ工作連盟へ―世紀転換期ドイツの美術工芸工房と教育』（A5判・五四〇〇円）  
▼上山吉哉・森悦秀編著『外科的矯正治療カラーアトラス』（B5判・四八〇〇円）  
▼沖大幹・姜益俊編著『知っておきたい水問題』（四六判・一八〇〇円）  
▼濱田裕子監修／空にかかるとはしご編集委員会編『空にかかるとはしご―天使になった子どもと生きるグリーンフサポートブック』（A5判変形・一四〇〇円）  
▼菅沼健太郎『トルコ語と現代ウイグル語の音韻レキシコン』（A5判・五五〇〇円）

大同印刷(株)	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20 TEL 0952-71-8550
ダイニツク(株)	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル TEL 03-5402-1811
(株) 太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16 TEL 03-3474-2821
(株) 太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111
寶紙業(株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-7-14 TEL 03-3261-5335
(株) 竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617
(株) 東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34 TEL 03-3291-1771
(株) とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200
東光整版印刷(株)	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15 TEL 03-3632-0801
(株) トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288
図書印刷(株)	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36 TEL 03-5843-9700
(株) 日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431
(株) 日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-5255-2198
萩原印刷(株)	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12 TEL 03-3811-4272
(株) 博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191
(株) 平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301
(株) 堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5 TEL 048-422-0029
(株) 毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340
誠製本(株)	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5 TEL 03-3967-3952
(株) 遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325
(株) 読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111
(株) ライトコミュニケーション	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F TEL 03-3251-7571
渡辺印刷(株)	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1 TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

## 一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

---

(株) 朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 TEL 03-5540-7749
垂細垂印刷(株)	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154 TEL 026-243-4858
(株) アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408 TEL 03-3235-1360
尼崎印刷(株)	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20 TEL 06-6494-1122
(株) A L E	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階 TEL 03-5652-8627
王子製紙(株)	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL 03-3563-7072
岡本出版発送(株)	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2 TEL 048-471-6291
カクタス・コミュニケーションズ(株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-Iビル4F TEL 03-6261-2290
(株)加藤文明社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-15-6 K-STAGE TEL 03-3261-8281
城島印刷(株)	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6 TEL 092-531-7102
(株)紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 TEL 03-6910-0510
(株)クイックス	〒456-0004 愛知県名古屋市熱田区桜田町19-20 TEL 052-871-9190
(株)糸川印刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7 TEL 03-3943-9811
(株)クリムゾンインタラクティブジャパン	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F TEL 03-3525-8001
港北出版印刷(株)	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7 TEL 03-5466-2201
三松堂(株)	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階 TEL 03-6823-5360
三美印刷(株)	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8 TEL 03-3803-3131
三立工芸(株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F TEL 03-3261-5171
三和印刷(株)	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1 TEL 026-285-2300
信濃印刷(株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11 TEL 03-3237-3601
(株)渋谷文泉閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7 TEL 026-244-7185
(株)真興社	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2 TEL 03-3462-1181
新日本印刷(株)	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342 TEL 03-3269-3611
(株)精興社	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9 TEL 03-3293-3021
創栄図書印刷(株)	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766 TEL 075-255-2288

---

## 大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2014年6月刊】

2013年6月から4回にわたり開催された大学出版部協会創立50周年記念連続シンポジウム「新しい社会を拓く大学の力」の成果より、2点をブックレット化しました。 日本生命財団学術書出版助成図書



座小田豊 ごこたゆたか（東北大学大学院文学研究科教授）

田中克 たなかまさる（京都大学名誉教授）

川崎一朗 かわさきいちろう（京都大学名誉教授）

### 防災と復興の知 3・11以後を生きる

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003150-9

列島沿岸を巨大堤防で覆う？——これまで通りの高度技術をふりかざすだけで、はたして本当に強靱な社会をつくることができるのか。哲学・生態学・地震学による対話を通して、自然と社会を千年の単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

#### 〈主要目次〉

第一章「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性（座小田豊）／第二章 森里海の連環から震災と防災を考える（田中克）／第三章 災害社会——本当に強い社会とは（川崎一朗）／終章「ふるさと」から「ふるさと」へ（座小田豊）



中村哲之 なかむらのりゆき（東洋学園大学人間科学部専任講師）

渡辺茂 わたなべしげる（慶應義塾大学名誉教授）

開一夫 ひらきかずお（東京大学大学院総合文化研究科教授）

藤田和生 ふじたかずお（京都大学大学院文学研究科教授）

### 心の多様性 脳は世界をいかに捉えているか

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003151-6

トリ、ヒト、それぞれが視る世界は同じものではない。赤ちゃんはいつごろから自分を自分と認識するのか。心の働きの多様性を比較認知科学・発達認知科学の視点からわかりやすく解き明かす。

#### 〈主要目次〉

第一章 トリの「視る」世界——動物の錯視と心（中村哲之）／第二章 ヒト型脳とハト型脳（渡辺茂）／第三章 脳は世界をいかに捉えているか（開一夫）／第四章 討論——心の多様性と現代（藤田和生×中村哲之・渡辺茂・開一夫）／あとがき（藤田和生）

# ナチュラヒストリーの時間

大学出版部協会編 A5判/160頁/定価(本体1,600円+税)

## 自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラヒストリーを愉しむ

### I. Prologue of Natural History

- 第1話 自然を記録すること……斎藤靖二  
第2話 自然史と本……青木淳一  
第3話 日本のナチュラヒストリー……岩槻邦男  
コラム① 動物写真の世界

### II. History of Nature

- 第4話 ノーチラス号が遭遇した大ダコ……奥谷喬司  
第5話 マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め……矢島道子  
第6話 京都の語り部：深泥池……竹門康弘  
第7話 遺跡の土に秘められた情報……松井 章  
コラム② ききみみずきん

- 第8話 遺体で動物学を埋め尽くす……遠藤秀紀  
第9話 ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち……武藤文人  
第10話 日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ……小山幸子

### III. Diversity of Nature

- 第11話 サクラソウとマルハナバチ……鷺谷いつみ  
第12話 日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる……湯本貴和  
第13話 琉球列島の自然史……太田英利  
第14話 マンボウと標本……松浦啓一  
第15話 分類学事始め：タクソン、タイプ、名前……馬渡駿輔  
コラム③ サルにノミはいない？ 幻の定説

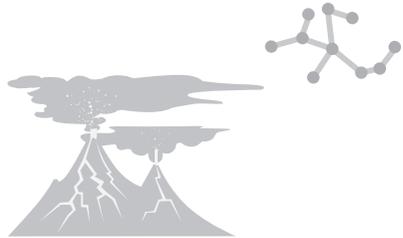
### IV. Story of Nature

- 第16話 クマ大量出没の謎……大井 徹  
第17話 ふしぎの国のアリ巢……丸山宗利  
第18話 現代によみがえったインカ時代の狩猟……山本紀夫  
第19話 子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材……古賀庸憲  
第20話 熱帯雨林の林冠アリ……市岡孝朗  
第21話 殿様の自然史……松岡明子  
第22話 幻のロバと男たち……木村李花子  
第23話 食の博物誌：多民族国家のハイ・ティー……周 達生  
コラム④ アリジゴクの自然史

### V. Epilogue of Natural History

- 第24話 遺伝子を通じた動物との対話……村山美穂  
第25話 ゲノム時代のナチュラヒストリー……西田 睦  
コラム⑤ 小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」……久塚純一  
自然史文献リスト





# エディテージの 書籍校正・翻訳サービス

エディテージでは書籍のための英文校正、翻訳、組版など、各種出版サポートサービスを行っております。英語ネイティブでない著者によって書かれた英語原稿の出版前校正と、日本語書籍の英語化のための翻訳・校正の両方に対応。経験豊富なプロジェクトマネージャーがお客様の書籍プロジェクトを責任をもって担当し、書籍出版までのすべてのプロセスで綿密にサポートをいたします。

## 選べる3種類の書籍サービス

書籍英文校正サービス	書籍翻訳・校正サービス	ベーシック書籍翻訳サービス
英語原稿の英文校正	翻訳＋スタンダード英文校正	翻訳のみ
英語ネイティブではない著者が執筆した英語の書籍原稿を英文校正して、国際出版レベルの英語にブラッシュアップ。	日本語のオリジナルの意味と文体を汲み取って翻訳し、専門分野を理解した校正者がさらに英語に磨きをかけます。	日本語で執筆された書籍の英語版ドラフトの作成をご希望の方におすすめのリーズナブルな翻訳サービス。
<b>書籍出版に便利な各種オプションサービス</b>		
上記2サービスには各種オプションサービスが追加できます。		
● 組版 ● 索引作成 ● 書籍カバーデザイン ● 書籍印刷		

## 書籍校正・翻訳サービスをご利用の大学・研究機関

- 一般社団法人 京都大学学術出版会
- 株式会社 早稲田大学出版部
- 人間総合科学大学
- 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター
- 一般社団法人 日本物理学会
- 公益財団法人 国際文化会館
- 一般社団法人 大学出版部協会
- 公益社団法人 化学工学会



書籍校正・翻訳サービスの詳細・ご注文はこちら  
[www.editage.jp/book-services/](http://www.editage.jp/book-services/)

エディテージはカクタス・コミュニケーションズのサービスブランドです。  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-1ビル4階

050-6861-0505 | [servicedesk@cactus.co.jp](mailto: servicedesk@cactus.co.jp)

ネットで注文、受取・支払いは書店店頭で

# オンライン書店 e-hon

【いーほん】

<http://www.e-hon.ne.jp>



いつでもどこでも  
e-honで注文して…



いつもの本屋さんで、  
送料無料で受け取り  
支払いは本屋さんの店頭で。

## 参加型謎解きキャンペーン

◆◆ 求ム 名探偵 ◆◆

怪盗ブックハントと  
狙われた書店の謎

～e-honミステリーキャンペーン～

10月16日(月)より全国書店で実施!



表紙イラスト：阿部卓也

※季刊「大学出版」は、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードいただけます

大学出版112号(2017年秋)

2017年10月1日発行

頒価100円(〒共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会

ISSN 0913-3305

振替00170-8-389131

〒102-0073

東京都千代田区九段北1丁目14番13号

メゾン萬六403号室

TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092

E-mail: mail@ajup-net.com

URL: <http://www.ajup-net.com/>

表紙デザイン：阿部卓也

## 一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覽

### ■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目

北海道大学構内

TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

### ■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地

弘前大学附属図書館内

TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

### ■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学構内

TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

### ■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市府畑120

TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

### ■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550

TEL 0472-365-1111 FAX 047-363-1401

### ■ 麗澤大学出版会

〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1

TEL 04-7173-3331 FAX 04-7173-3154

### ■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30

TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

### ■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3

TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

### ■ 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1

TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3038

### ■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

### ■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1

TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

### ■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29

TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

### ■ 東京電機大学出版局

〒101-0047 千代田区内神田1-14-8

TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

### ■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3

法政大学九段校舎内

TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

### ■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20

武蔵野大学構内

TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

### ■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

### ■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1

TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

### ■ 早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12

TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

### ■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

### ■ 東海大学出版部

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1

TEL 0463-58-7811 FAX 0463-58-7833

### ■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市中千種区不老町1

名古屋大学構内

TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

### ■ 名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57

名古屋外国語大学内

TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

### ■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577

三重大学総合研究棟Ⅱ3階

TEL 059-232-1356 FAX 059-253-3095

### ■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69

京都大学吉田南構内

TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

### ■ 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10

TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

### ■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7

大阪大学ウエストフロント

TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

### ■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

### ■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

### ■ 広島大学出版会

〒739-8512 広島市山鏡山1-2-2

広島大学図書館内

TEL 082-424-6226 FAX 082-424-6211

### ■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34

九州大学産学官連携イノベーションプラザ

305

TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160